

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 2 2 年 6 月
山梨大学

目 次

【教育】

教育 1	G P A制度および履修登録単位数の上限制度に関する要項	1
教育 2	全学共通教育科目シラバス作成要領	1
教育 3	授業評価アンケートの見直し	2
教育 4	授業評価アンケートのフィードバック内容	2
教育 5	教学関係委員会組織図	3
教育 6	キャリアセンターにおける学生就職支援活動実績	3
教育 7	出席状況調査と修学指導	3
教育 8	早稲田大学との連携事業	6
教育 9	組込み型統合システム開発教育プログラム	6
教育10	グローバルC O Eプログラム「アジア域での流域総合水管理研究教育 の展開」	7
教育11	入試改善の仕組み	8
教育12	授業評価アンケート項目の見直し	10
教育13	地域医療学	11
教育14	全学F Dの基本的な目的	11
教育15	大学教育研究開発センター関連委員会の見直し	12
教育16	教員個人評価	12
教育17	教員評価支援システム	13
教育18	eラーニングシステム「Moodle」	14
教育19	統合能力型高度技術者養成プロジェクト（学大将プロジェクト）	14
教育20	共創学習支援室（フィロス）	15
教育21	成績分布状況確認システム	15
教育22	プロジェクトY	16
教育23	山梨学	16
教育24	総合情報戦略機構	17
教育25	C A L Lシステム	17
教育26	防音室（スタジオ）	18
教育27	全学F D研修会開催実績	18
教育28	国際燃料電池技術研究者の基礎実学融合教育	19
教育29	学生相談対応事例集	20
教育30	学生相談「よろずボックス」	20

【研究】

研究 1	グローバルC O Eプログラム「アジア域での流域総合水管理研究教育 の展開」	21
研究 2	燃料電池ナノ材料研究センターの概要及び教育研究概念図	22
研究 3	高感度な可視光水分解光触媒の創製	23
研究 4	地域産学官共同研究拠点	23
研究 5	コア・サイエンス・ティーチャー養成拠点構築事業	24
研究 6	国立大学附属学校における新たな活用方策に関する調査研究	24
研究 7	日本学士院学術奨励賞（研究課題：グリア細胞による脳機能の制御）	25
研究 8	住民・行政協働ユビキタス減災情報システム	25
研究 9	大脳聴覚野の直接電流刺激法による聴覚B M I の開発	26
研究10	眼科遠隔診療システム	26
研究11	先端領域若手研究リーダー育成拠点	27
研究12	産学官連携・研究推進機構	27
研究13	山梨大学発 "ビジネスチャンス"直行便！	28

研究14	個別技術相談会	28
研究15	新技術説明会	29
研究16	知的財産事業の国際展開	30
研究17	山梨大学学術リポジトリ	30
研究18	自己点検・評価システムフロー	31
研究19	教員個人評価	32
研究20	科学研究費補助金未申請者に対する調整の取扱い	33
研究21	教育研究高度化支援体制整備プロジェクト	34
研究22	研究時間を保証する制度の検討	34
研究23	インキュベーションセンター	35
研究24	研究費補助金の入金前使用に係る資金立替	35
研究25	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	36
研究26	山梨大学研究シーズ紹介CD-ROM	36
研究27	国際・大学知財本部コンソーシアム	37

【社会】

社会1	プロサッカーチーム（ヴァンフォーレ甲府）とのグラウンド使用に関する覚書	38
社会2	客員社会連携コーディネーターの増員	38
社会3	地産地消&体験型総合教育モデルの構築	39
社会4	国際交流協定一覧	39

【図書】

図書1	附属図書館（本館）貸出冊数と入館者数	40
図書2	学生用図書選定方法の改善	41
図書3	山梨大学学術リポジトリ	41
図書4	附属図書館主催イベント等	42
図書5	附属図書館環境整備	43

【センター】

センター1	教育研究高度化支援体制整備プロジェクト	44
センター2	メールシステムの増強	45
センター3	燃料電池ナノ材料研究センターの概要及び教育研究概念図	46
センター4	グローバルCOEプログラム「アジア域での流域総合水管理研究教育の展開」	47
センター5	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	48
センター6	地域産学官共同研究拠点	48

資料 教育1 G P A制度および履修登録単位数の上限制度に関する要項（抜粋）

制定 平成20年 3月18日

改正 平成20年12月17日

(目的)

第1条 この要項は、山梨大学（以下「本学」という。）におけるグレードポイントアベレージ（以下「G P A」という。）及び履修登録単位数の上限制度について必要な事項を定め、学生の学習意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と学生支援に資することを目的とする。

(定義)

第2条 「G P A」とは、各授業科目5段階の成績評価に対応して4～0のグレードポイント（以下「G P」という。）を付与して算出する1単位当たりのG P平均値をいう。

2 G P A対象授業科目は、次の各号に掲げる授業科目とする。

- (1) 100点を満点として成績評価されるすべての授業科目
- (2) 本学在学中に、他の大学において履修した授業科目又は外国の大学（短期大学を含む。）において学修した成果・履修した授業科目であって、第1号の要件を満たす授業科目
- (3) 本学入学前及び他の大学（短期大学、高等専門学校を含む。）において履修した授業科目又は外国の大学（短期大学を含む。）において学修した成果若しくは履修した授業科目であって、本学における授業科目の履修により修得したものとみなされた授業科目であり、かつ第1号の要件を満たす授業科目
- (4) 短期大学・高等専門学校等及び文部科学大臣が別に定める学修を本学の定める授業科目の履修とみなし、単位を与えられた授業科目であって、第1号の要件を満たす授業科目

3 成績評価が点数によらない以下の科目及び未入力又は保留の授業科目については、G P Aの対象から除く。

- (1) 合格か不合格かだけを判定する授業科目
- (2) 編入学又は転入学した際の単位認定科目
- (3) 本学入学前に修得した単位認定科目
- (4) 他大学等との単位互換等で修得した科目

(成績評価およびG P)

第3条 各学部等で定める成績評価並びにG Pは、次のとおりとする。

- (1) S (90～100) G P=4
- (2) A (80～89) G P=3
- (3) B (70～79) G P=2
- (4) C (60～69) G P=1
- (5) D (0～59及び未受験) G P=0
- (6) N (無資格) G P=0
- (7) T (認定) G P=対象外
- (8) I (未入力、保留) G P=対象外

(中略)

(全学共通教育科目における履修登録単位数の上限)

第7条 教育人間科学部及び工学部の学部学生が、各学期に履修登録できる全学共通教育科目の単位数の上限は、次のとおりとする。なお、前学期が休学等の場合には、その直前の学期G P Aを参照する。

- (1) 前学期の学期G P Aが3以上の学生 = 12単位
 - (2) 前学期の学期G P Aが2.5以上の学生 = 10単位
 - (3) 前学期の学期G P Aが2.4以下～1.6以上の学生 = 8単位
 - (4) 前学期の学期G P Aが1.5以下の学生 = 6単位
 - (5) 1年次に入学、編入学、再入学する学生 = 10単位
- 2 全学共通教育科目のうち、以下の科目は履修登録単位数の上限科目から除く。
- (1) 人間形成科目部門の「大学基礎オリエンテーション」、「生活と健康」
 - (2) 自発的教養科目部門の科目
 - (3) 基礎科目部門の科目
 - (4) 全学共通教育科目のうち2単位以外の科目
 - (5) 外部試験・単位互換で全学共通教育科目に認定する科目
 - (6) 集中講義
- 3 医学部の学部学生については、履修登録単位数の上限設定は行なわない。

(出典：「G P A制度および履修登録単位数の上限制度に関する要項」)

資料 教育2 全学共通教育科目シラバス作成要領（抜粋）

7. 到達目標（必須）

この講義でどこまで修得すればよいのかをできるだけ具体的に記載してください。

その際、下記の①一般的な留意点②表現例を参考にし、「全学共通教育の方向性と理念」に示された、科目履修により学生が身につけることが期待される知識・能力・姿勢等に関わるキーワードのカテゴリ毎に記載してください。カテゴリは、(1) 知識と視野、(2) 能力と技能、(3) 人間性と倫理性の3つです。また、重要度の欄が設けてありますので、一番重要とする目標について◎を選択してください。「全学共通教育の方向性と理念」については（別紙）を参照してください。

(出典：「全学共通教育科目シラバス作成要領」)

資料 教育3 授業評価アンケートの見直し

学期末アンケートの見直しスケジュール 1. 2008 年度前期 (1) アンケート項目の見直し ・用紙をA4へ変更 → 設問を15～20問程度に → いままでの設問は総合的な評価が多く、どこを改善するかを明示できるような項目が少なかった → 1) 授業への学生の取組 2) 授業内容・方法 3) 総合評価 の3つに区分してアンケート項目を見直す、マークシート用紙には順不同で提示する。 (2) 対象科目の見直し (3) 分析方法の見直し(試行) 2. 2008 年度後期

(出典：平成20年度第1回授業評価・フィードバックプロジェクト委員会資料)

資料 教育4 授業評価アンケートのフィードバック内容

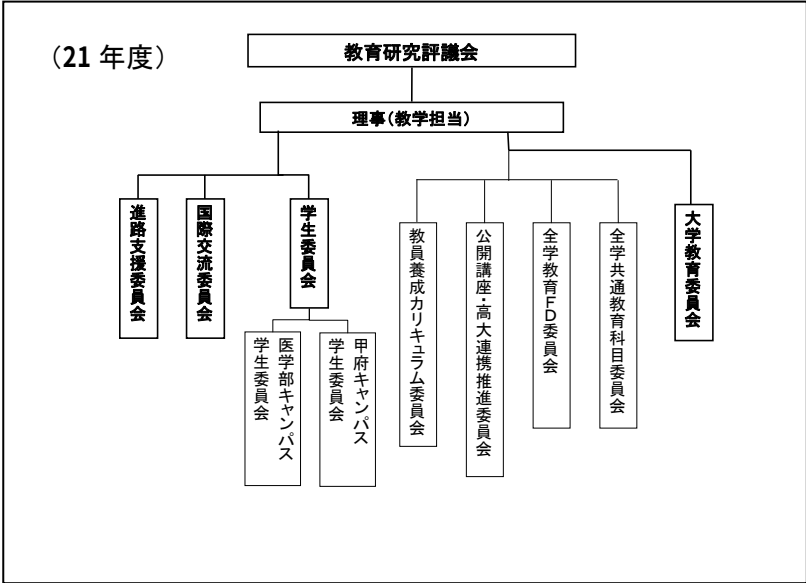
2009年度後期 授業評価アンケート集計結果表(科目別)										山梨大学											
学部		*****		科目名		*****		時間割番号		*****		履修者数		65							
学科		*****		教員名		*****		曜日		火曜日		回答数		61							
グループ								時限		11時限		回収率		93.8%							
学部回答数										学年回答数											
教育人間科学部		医学部		工学部		無効回答		1年		2年		3年		4年		5年		6年		無効回答	
0		61		0		0		61		0		0		0		0		0		0	
項	設問文	当該科目平均	大学平均	グループ平均	回答数						無効回答										
					5 強く 思う	4 そう 思う	3 どちら でも ない	2 そう 思わない	1 全く 思わない												
○授業への学生の取組(3問)																					
1	あなたは、この授業によく出席した。	4.75	4.47	4.80	47	13	1	0	0	0											
2	あなたは、この授業に積極的に参加した(質問、ディスカッション、発言など)。	3.38	3.56	3.50	2	25	29	4	1	0											
3	授業の予習・復習に当てた1週間あたりの平均的な時間をマークして下さい。 5: 3時間以上、4: 2～3時間、3: 1～2時間、2: 1時間未満、1: 0時間	2.43	2.30	2.12	0	2	28	25	6	0											
○授業に対する総合評価(5問)																					
4	授業を受けてよかったと思った。	4.34	3.86	4.22	28	26	7	0	0	0											
5	授業の内容をさらに深めて勉強したいと思った。	4.25	3.70	4.17	25	26	10	0	0	0											
6	授業を受けた後で、あなたの知識や思考力、あるいはスキルは向上した。	4.20	3.84	4.04	21	32	7	1	0	0											
7	各授業時間に挙げられた到達目標まで到達できた。	3.59	3.55	3.56	7	24	28	2	0	0											
8	あなたは自身はシラバスにある授業の到達目標をどの程度達成できたと思いますか。 5: 90%以上、4: 80～89%、3: 70～79%、2: 60～69%、1: 60%未満	3.15	3.18	3.12	2	16	33	9	1	0											
	設問8(目標達成度自己評価)を成績評価分布と比較するために換算したデータ(詳細は別紙参照)	2.15	2.18	2.12	4点 2	3点 16	2点 33	1点 9	0点 1	無効 回答 0											
○授業内容・方法(8問)																					
9	授業の進め方は、理解しやすいように工夫されていた (教科書・参考書・配布資料の利用、板書、視聴覚機器の利用など)。	3.95	3.73	3.87	14	31	15	1	0	0											
10	授業の意義や到達目標が説明された。	3.75	3.72	3.68	12	23	25	1	0	0											
○各教員による個別質問(2問)																					
17	各教員による個別質問	-	3.75	4.00	0	0	0	0	0	0	61										
18	各教員による個別質問	-	3.53	3.00	0	0	0	0	0	0	61										

大学平均・グループ平均との比較

Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16
4.75	3.38	2.43	4.34	4.25	4.20	3.59	3.15	3.95	3.75	3.84	3.72	3.98	4.02	3.18

(出典：教学支援部教務課資料)

資料 教育5 教学関係委員会組織図



(出典：教学支援部教務課資料)

資料 教育6 キャリアセンターにおける学生就職支援活動実績

平成21年度 就職支援活動と学生参加状況一覧

番号	事業名	参加者	前年度参加者	開催日	実施機関
1	山梨県警察官説明会	10	新規実施	4月17日	甲府警察署
2	青年海外協力隊説明会	20	新規実施	4月21日	青年海外協力隊事務局
3	インターンシップガイダンス	459	新規実施	4/23・24	インターンシップ部会(合同開催初)
4	留学生のための就職ガイダンス	6	新規実施	6/2	留学生センターとの共催
5	理系ガイダンス(進路関係)	62	新規実施	7/1	毎日コミュニケーションズ
6	就職支援無料バスツアー	13	新規実施	7/15	日経ナビ(ディスコ)(1台)
7	合同就職説明会	20	新規実施	9/25	甲府商工会議所(参加学生総数80名)
8	企業見学会	31	新規実施	10/20	甲府カシオ(応用化学)
9	職員募集説明会	12	新規実施	10/27	青年海外協力隊
10	企業見学会	33	新規実施	11/17	甲府カシオ(応用化学)
11	就職支援無料バスツアー(機・電・情、女子)	66	新規実施	11/22	リクルート(2台)
12	就職支援無料バスツアー(Uターン)	23	新規実施	12/13	毎日コミュニケーションズ(1台)
13	内定学生との懇談会(教員関係)	48	新規実施	12/16	内定者15名含む
14	東京の学校見学バスツアー	14	新規実施	12/18	東京都教育委員会(1台)
15	就職支援無料バスツアー	34	新規実施	1/9	毎日コミュニケーションズ(1台)
16	継続実施事業(56件合計)	4,208	4,118		
	参加学生総数	5,059	4,118		

(出典：キャリアセンター資料)

資料 教育7 出席状況調査と修学指導

○出席状況調査

2009年度後期 出席状況調べ(指導状況結果)				
指導状況	件数	割合	指導状況(内訳)	件数
指導あり	75	35.9%	・指導の必要なし	10
報告はあるが、指導なし	74	35.4%	・学生と連絡が取れないため、指導できず	10
報告なし	60	28.7%	・指導対象外	50
	209	100.0%	・その他	4

(出典：教学支援部教務課資料)

○修学指導の手引き

平成 21 年度後期授業出席状況による修学指導の手引き（抜粋）

昨年度より授業出席状況における修学指導を実施しておりますが、どのように指導を行って良いかわからないとの意見が多数ありました。そこで、昨年度の指導事例を参考に手引きを作成いたしましたので、以下の点を参考にしてご指導いただければ幸いです。クラス担任、指導教員としての役割に基づき、対応いただければと存じます。

※現在対応中、またはすでに対応済みの場合は、以下の点にかかわらず、その状況をお知らせください。

※「出席状況調べ」の出席欄（○、△、×）について

（一部の授業については授業の実施状況に応じて判断していますが、原則は下記の通りです）

「出席状況調べ」で出席率 25%(1/4)以下の科目が4科目以上：「×」

「出席状況調べ」で出席率 25%(1/4)以下の科目が3科目：「△」

「出席状況調べ」で出席率 25%(1/4)以下の科目が2科目：「○」

○本人への連絡

○該当学生の履修状況・出席状況の確認

○授業の欠席理由が下記のような点に起因している場合の修学指導（例）

- ①アルバイトや生活習慣に関わっているのか
- ②授業内容の理解度に関わっているのか
- ③生活全般に関わる悩みや心身の不調があるのか

○継続指導の必要性の有無

（出典：「平成 21 年度後期授業出席状況による修学指導の手引き」）

○保護者への修得単位通知書の送付

平成 年 月

保護者 各位

山梨大学 ○○○○ 学部長

学部長 名

保護者への修得単位通知書の送付について（通知）

保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、山梨大学では、今後ともより充実した学生指導体制の構築を図って参りたいと存じます。その一環として、大学の指導に加えて保護者のご指導の下、順調に学習を進められるよう、学生の修学状況をお知らせしています。

同封いたしましたものが、学生の修学状況を示す修得単位通知書です。この修得単位通知書は、各学期末の9月及び3月に郵送いたします。今回お送りしました「修得単位通知書」をご覧になり、皆様にも学生の修学状況の把握をしていただければ幸いと存じます。

修得単位通知書についてのお問い合わせ先は、以下のとおりです。

○○○○ 学部教務グループ
電話 0 5 5 - 000 - 0000

（出典：教学支援部教務課資料）

○修得単位通知書と説明文

修得単位通知書

○○○学部 ○ ○ 学 科 ○○コース 3年次

学籍番号X0000001 氏名 ○○

0001

G P A	2005年度	2006年度	2007年度						合 計
前 期	2.9	3.2	2.4						
後 期	3.3	2.6	2.9						2.9

授 業 科 目 名						単位	成績	備考	授 業 科 目 名						単位	成績	備考	授 業 科 目 名						単位	成績	備考	授 業 科 目 名						単位	成績	備考												
【2005年度 前期】									**取得 19科目 36.0単位**																																						
基本実業科目Ⅳ									2	83		【2006年度 後期】																																			
# 英語A									2	80		# 経済学の目で見ると									2	70																									
# 中国語A									2	60		# 子どもと文化									2	未受験																									
# 保健体育A									1	80		# 英語W(中級)									2	78																									
# 日本文学作品論Ⅰ									2	96		# 専門学校臨床心理学(生徒指導・進路指導を含む。)									2	83	◎																								
# 現代社会と教育									2	90		# 児童文化心理学									2	未受験																									
# 日本国憲法									2	85		# 初等音楽科教育学									2	100	◎																								
専 学部入門ゼミ									2	80	◎	# 英語科概論(書写1単位を含む。)									2	82																									
# 現代教育論									2	75	◎	# 数学概論									2	94																									
# 生涯発達教育心理学									2	83	◎																																				
# 情報科学入門及び実習									2	88	◎																																				
# 環境科学概論									2	74																																					

学年別平均取得単位数

学 年	1年		2年		3年						全体計		卒業に必要な	
区 分	平均	取得	平均	取得	平均	取得	平均	取得	平均	取得	平均	取得	最低修得単位数	
共通科目	13.6	13	4.5	4	3.7	4							41.1	38
	前後 11.0	15	4.2	4	4.1	4								
専門科目	19.2	20	25.1	24	10.4	8							104.4	94
	前後 16.3	14	18.8	15	14.6	13								
卒業要件単位		62		47		29							138	133

山 梨 大 学

保護者への説明書（抜粋）

1. 成績評価基準について

- (1) 履修した授業科目の成績評価は、原則として試験（筆記試験・論文・レポート・その他）により行います。
- (2) 成績は100点満点で記載されており、60点以上（合格・認定も含む）で合格となります。
- (3) 成績証明書は、下表の評語により表示します。

評価（点数）	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	合格	認定	59点以下	未受験	無資格
修得単位通知書	点 数 (100～60)				合格	認定	不合格	未受験	無資格
成績証明書	S	A	B	C	合格	T	D		N

未受験：試験等を受けなくて成績評価ができないもの。

無資格：出席等が足りず成績評価の対象から外されたもの。

2. G P A制度

- (1) G P Aとは
- (2) G P A算出方法
- (3) 対象科目
- (4) G P Aの表記方法
- (5) G P Aの「総合評価表」

算出されたG P Aは、下表を参照し、目安としてください。

G P A	総 合 評 価	備 考
3. 5 ～ 4. 0	大変優秀な成績です。	全学生の上位2%
3. 0 ～ 3. 4	優秀な成績です。	全学生の上位15%
2. 0 ～ 2. 9	良好な成績です。	全学生の66%がここに位置します。
1. 0 ～ 1. 9	努力が必要です。	全学生の低位15%
0 ～ 0. 9	より一層の努力が必要です。	全学生の低位2%

（出典：教学支援部教務課資料）

資料 教育 8 早稲田大学との連携事業



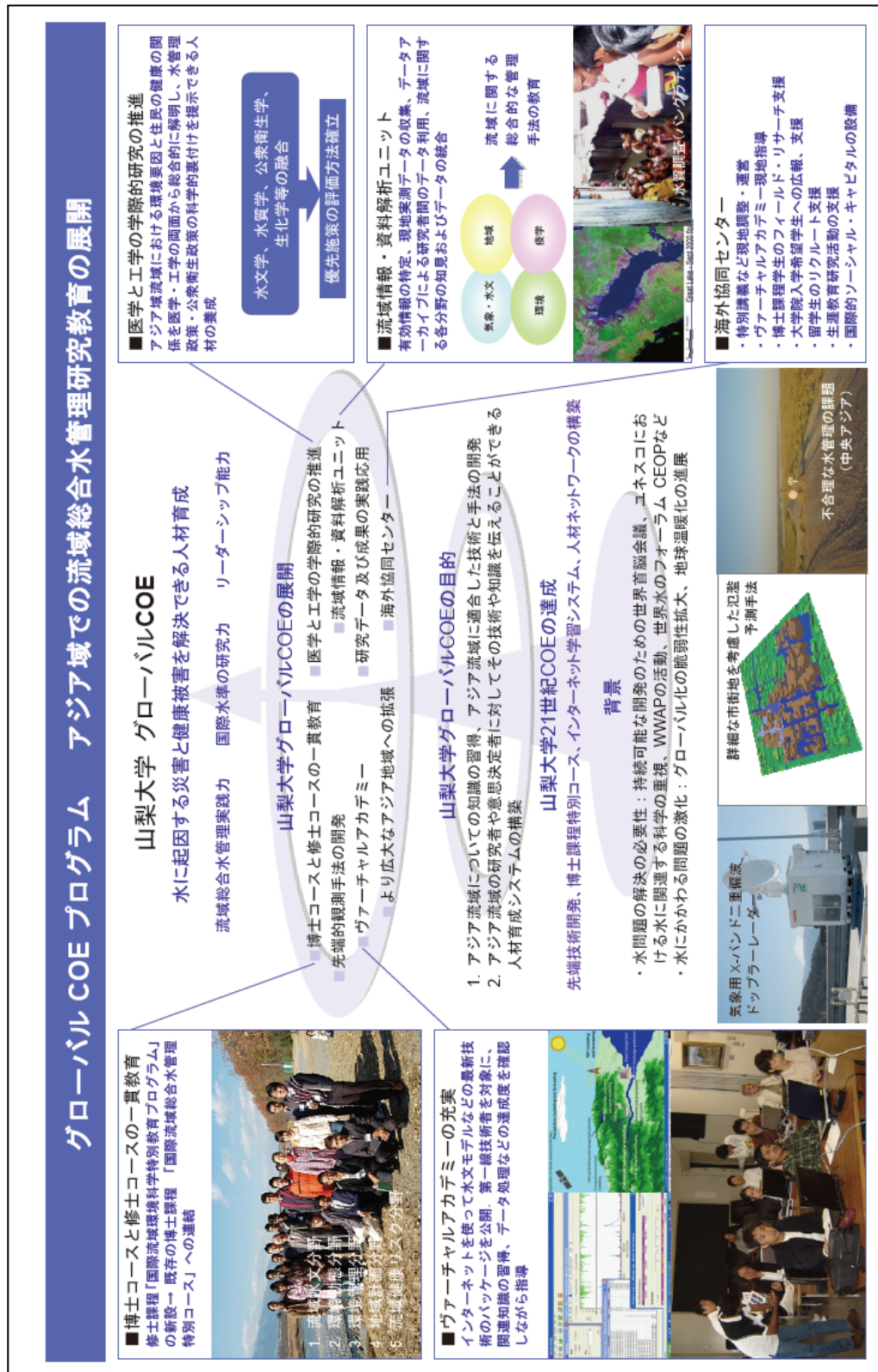
(出典：「山梨大学×早稲田大学 医学・理工学に精通した先端生命科学研究者の育成事業」ホームページ)

資料 教育 9 組込み型統合システム開発教育プログラム

組込み型統合システム開発教育プログラム概要

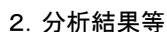
組込み型統合システムの開発においては機械・電気・コンピュータの深い独自の専門知識が必要であるとともにこれらの分野にまたがる知識・技能が不可欠です。さらに、異分野の技術者が密にコミュニケーションを取りつつ、主体的にかつ協働して製品開発を行う必要があります。このような開発ができる技術者を養成するために、異分野学生の協働製品開発作業、異分野学生間の発表・討議、異分野教員の指導、主体的開発能力育成により、このような製品開発に必要な知識とスキルの獲得・実質化をねらいます。本教育目標を実現するため、既存の複数専攻が協力して新教育プログラムをおこないます。

(出典：「組込み型統合システム開発教育プログラム」ホームページ)



(出典：「アジア域での流域総合水管理研究教育の展開」ホームページ)

1. 入試の改善を検討する組織等について（追跡調査結果を入試に反映する仕組み）



- 【入学者選抜方法研究委員会2007報告書の抜粋版】

入学者選抜方法研究委員会 2007年度報告書（平成20年3月発行）

山梨大学入学者選抜方法研究委員会

(中略)

〔教育人間科学部関係〕

表2 選抜日程別入学辞退者率推移(教育人間科学部)

・表2及び……(中略)……、後期日程では増減幅も大きく前期日程と比較して、辞退率は高い傾向が表れている。

(中略)

〔工学部関係〕

(出典：入学者選抜方法研究委員会2007報告書)

3. 分析結果等を踏まえた検討

○ 上述2. の分析結果や追跡結果及び学業成績との相関等に関し、各学部の「入学者選抜方法検討委員会」及び「各学部追跡調査委員会等」において検討し、各学部教授会の了承を得た上で、「入学者選抜方法研究委員会」に検討結果が報告された。

・各学部からの報告内容(改善に係る要旨)

教育人間科学部:入試センター試験を重視し論文や面接で志望動機や入学意思の確認が行えるよう後期日程における小論文の共通化、配点の見直しの必要性。

医学部:入学後の追跡調査の結果から、後期日程において面接試験の導入の必要性。

工学部:後期日程での入学者及び推薦入学者の成績平均値が前期日程での入学者よりも高い傾向にある。→前期日程の第二志望制度の導入の必要性。



○ 同研究委員会では各学部等の検討結果を検証し、その結果を大学入試本部に報告した。これを受け、大学入試本部で反映(改善)内容を最終決定。(決定内容は、下記議事録(要点抜粋)のとおり)

平成20年度第1回大学入試本部会議議事録(平成20年7月11日開催)(抜粋)

(中略)

審議事項6 平成21年度山梨大学入学者選抜要項について

・学長から、資料9に基づき……(中略)……①教育人間科学部後期小論文の配点の統一……(中略)……④工学部の循環システム工学科を除く6学科で第2志望制を導入すること等の説明があり、審議の結果、これを承認した。

平成21年度第2回大学入試本部会議議事録(平成21年6月19日開催)(抜粋)

(中略)

審議事項6 平成22年度入学者選抜要項について

・学長から、標記の件(資料6)について、……(中略)……③医学部医学科後期日程において、新たに面接を課すことによる変更……(中略)……について説明があり、審議の結果、原案どおり了承した。

(出典:大学入試本部会議議事録等)

資料 教育 12 授業評価アンケート項目の見直し

授業評価項目の見直しについて

- : 従来の評価項目（表現が変更されている場合も含む）
- : 従来の項目の見直し案
- ・ : 追加項目案

1) 授業への学生の取組

- あなたは、この授業によく出席した。（学生の参加状況）
- あなたは、この授業において予習・復習・発言などに積極的に取り組んだ。（学生の学習態度）
 - あなたは、この授業に積極的に参加した。
- ・ 授業の予習・復習に当てた時間（1週間あたりの平均的な時間を次の中から選んでマークしてください。）
< 1. 3時間以上 2. 2～3時間 3. 1～2時間 4. 1時間未満 5. 0時間 >

2) 授業内容・方法

- 授業を受けた後で、あなたの知識と思考力は向上した。（能力開発度）
- 教員の説明は、分かり易かった。（分かり易さ）
 - 授業が理解しやすいように工夫されていた。
- 各授業時間に授業の到達目標は明示された。（学習目標の明示）
 - 授業の意義や到達目標が説明された。
 - ・ 中間期の授業アンケートなどにより学生の意見を聴き、意見への対応方法について説明した。
 - ・ 板書のしかたが適切だった。
 - ・ 視聴覚機材（ビデオ・OHP・パワーポイントなど）の利用は効果的だった。
 - ・ 教員の授業に対する熱意・意欲を感じた。
 - ・ 授業についての質問に教員から適切な指導を受けることができた。
 - ・ 教科書・参考書・配布資料は授業目標を達成するために効果的だった。
 - ・ シラバスの授業計画に沿って授業が展開された。
 - ・ 予習・復習についての指導や宿題・課題・レポートの指示は適切であった。
 - ・ グループワークやディスカッションなど学生が参加する機会があった。

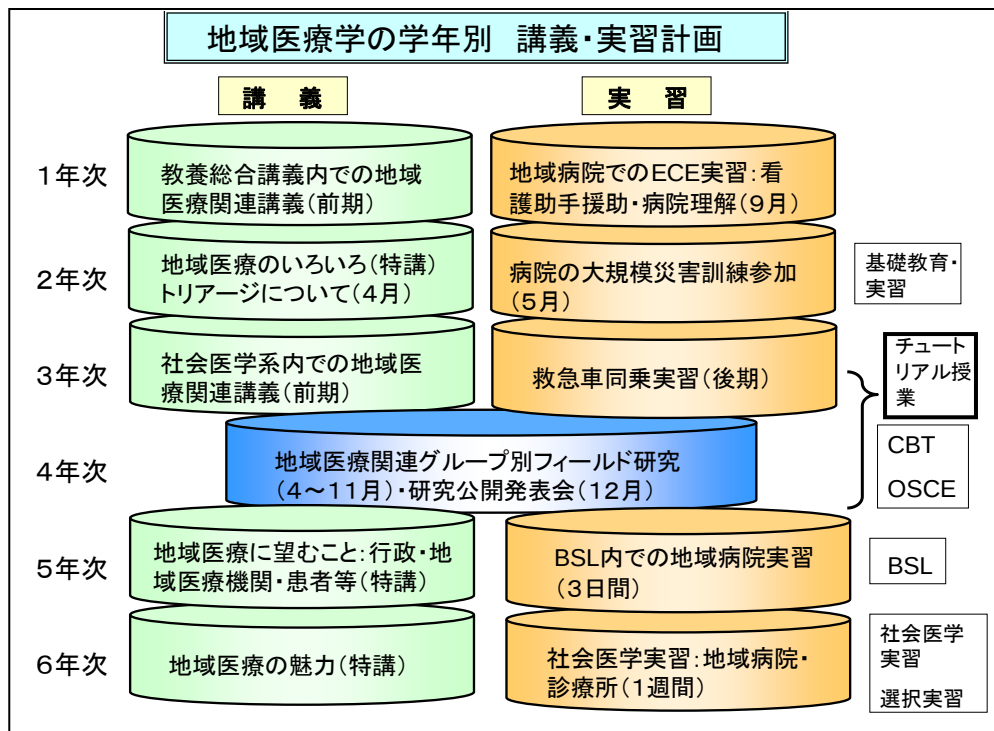
3) 総合評価

- 授業を受けてよかったと思った。（満足度）
 - 授業を受けて満足した。
 - 授業を受けて意味があったと思った。
 - 授業の内容をさらに深めて勉強したいと思った。（感銘度）
 - 各授業時間に挙げられた到達目標まで到達できた。（到達度）
 - あなた自身はシラバスにある授業の到達目標をどの程度達成できたと思いますか（次の中から選んでマークしてください。）
- < 1. 90%以上 2. 80～89% 3. 70～79% 4. 60～69% 5. 60%未満 >

4) 各教員による個別質問（2問）

（出典：教学支援部教務課資料）

資料 教育 13 地域医療学



(出典: 地域医療学講座資料)

資料 教育 14 全学FDの基本的な目的

山梨大学の全学FDの基本的な目的と今後の活動内容について(抜粋)

2. 全学FDの基本的な目的と活動内容

※ これまで本学では、「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」に該当するさまざまな活動が、大学教育研究開発センター主催行事に限らず、さまざまな形態で行なわれてきている。それらの活動及び今後必要となるFD活動の例を分類・整理し、今後の全学的なFD活動の基本的な目的として、①②を抽出した。

①個々の教員の授業内容・方法や学習支援方法の改善支援

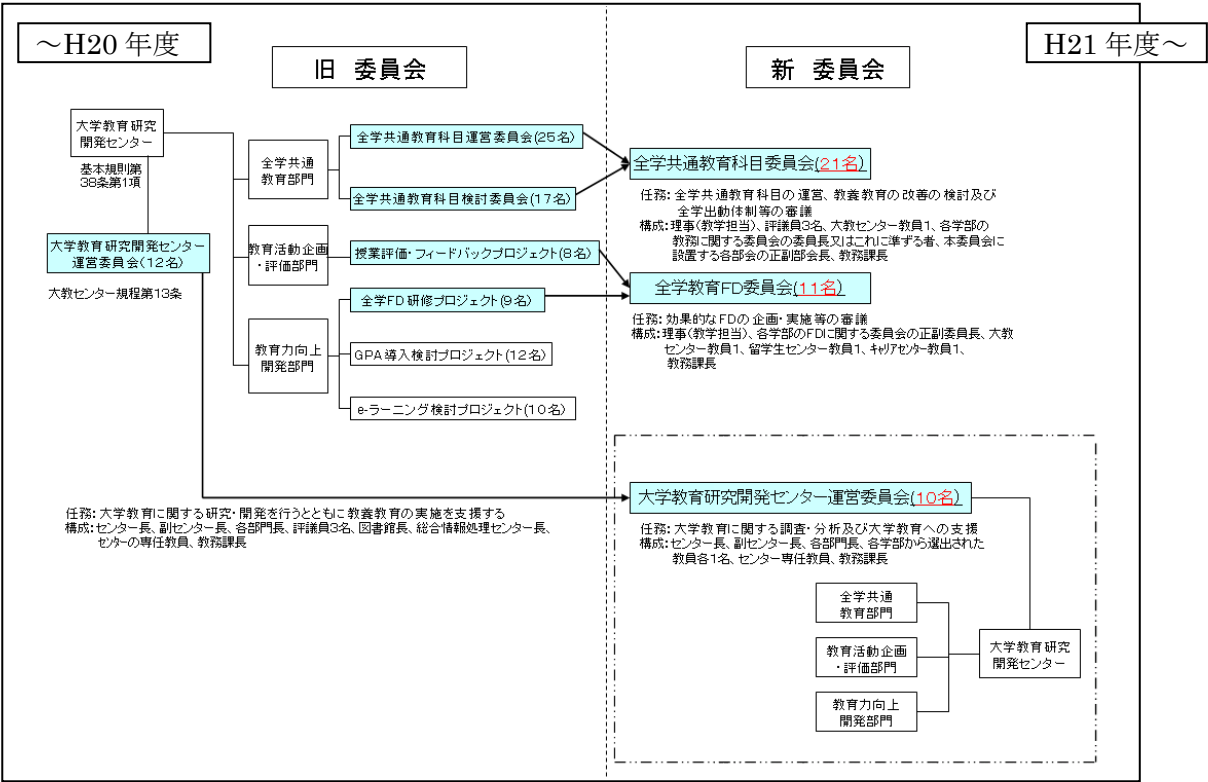
- ①-1 授業評価を活用した授業内容・方法の改善
- ①-2 全学FD研修会を活用した授業内容・方法の改善
 - <個々の授業観察に基づく授業改善>
 - <個々の授業計画能力向上のための講習・研修>
 - <ICT活用能力の向上のための講習・研修>

②教育改善に向けた取り組み等について、学部間、教員間、教員・職員・学生間の情報の共有と課題解決方策の検討

- ②-1 教育改善のための全学的取り組み
- ②-2 各学部・全学共通教育部門の教育改善に向けた取り組み
- ②-3 本学の教育を取り巻く環境を示すデータの共有
- ②-4 教員向けハンドブックの作成と普及
- ②-5 国の大学教育政策等に関する情報の共有

(出典: 平成20年度第1回全学FD研修プロジェクト委員会資料)

資料 教育 15 大学教育研究開発センター関連委員会の見直し



(出典：教学支援部教務課資料)

資料 教育 16 教員個人評価

○山梨大学における教員の個人評価方針（抜粋）

- 第1 目的
- 国立大学法人山梨大学（以下「本学」という。）は、教員個人の活動状況について点検・評価し、もって本学の教育、研究等の向上に資するよう、以下のことを目的として教員の個人評価（以下「教員評価」という。）を実施する。
- 1 教員は、自己の諸活動を自己評価し、また客観的評価を受けることによって、諸活動の改善と自己啓発に努め、もって本学の理念の実現を図ることに寄与する。
 - 2 教員一人ひとりの諸活動が社会や大学に対して責任があることを認識し、その成果を社会に還元し、社会に対する説明責任を果たす。
 - 3 アクティビティの高い能力ある教員に適切なインセンティブを与える。
 - 4 組織を活性化し、法人の経営改善に役立てる。
- 第9 評価結果の活用
- 1 評価結果は、教員の再教育、勤務環境、表彰、一時金、賞与、教育研究費、研究スペース、教員人事等に反映させる。
なお、評価結果の各教員への反映の方針及び実施方法は別に定める。
 - 2 大学評価本部長は評価結果を学部長等に通知し、学部長等は各教員に通知する。各評価領域又は総合評価で、「やや問題があり、改善の余地がある」及び「問題があり改善を要する」と評価された教員は、通知後一か月以内にその評価期間における活動改善報告書（別紙様式5）を所属する学部長等に提出する。学部長等は「問題があり改善を要する」と評価された教員に面接し、活動改善報告書に基づき、活動の改善について適切な指導及び助言を行う。

(出典：「山梨大学における教員の個人評価方針」)

○優秀教員奨励制度

- (1) 各学部からの推薦に基づき次のとおり反映させる。
- ① 特別表彰
毎年度、教育人間科学部 1 名、医学部 3 名及び工学部 2 名に対し表彰状を授与し、併せて教育研究費 30 万円を配分する。
 - ② 研究特別奨励賞
教育人間科学部にあっては隔年度 1 名、医学部にあっては毎年度 1 名（ただし、隔年度で 1 名を追加する。）、工学部にあっては毎年度 1 名の合計 3 名に対し表彰状を授与し、併せて戦略的プロジェクト経費の中に設けた特別教育研究経費 100 万円を配分する。
 - ③ 特別報奨
毎年度、教育人間科学部にあっては 1 名、医学部にあっては 3 名、工学部にあっては 2 名に対し表彰状を授与し、併せて 6 月期の勤勉手当の成績区分において「特に優秀」と位置付ける。
 - ④ 表彰
上記の①、②又は③の事項いずれにも該当しない者には、表彰状を授与する。
- (2) (1)の①から④までの事項は、同一の者に対して同一の年度に重複して適用しない。
- (3) (1)の①から③までの事項のいずれかを適用された者は、その後の 2 ヶ年度の間は、その適用を受けない。

（出典：「教員の個人評価結果の反映に関する要領」）

資料 教育 17 教員評価支援システム

教員個人評価を支援する 2つのシステム



1. **新・教育研究活動データベースシステム**
 - 活動実績のデータベース化（医学部業績システムとも連携）
 - [教員評価調査表](#)の自動作成（Wordファイル出力）
 - 研究者総覧用の個人HTMLページ自動生成
2. **教員評価支援システム**
 - [重点目標・達成度評価表](#)
 - 当該年度の目標作成・部局確認の支援
 - 次年度の達成度の自己評価・部局評価の支援
 - [活動実績の概要と評価表](#)
 - 当該年度の実績概要入力と自己評価と部局評価の支援
 - 2つの評価表を紙に印刷すること無しに、基本的に、本システム内で全ての作業が可能。（注：紙に印刷する機能ある）
 - 参考資料：総表

（出典：教員評価支援システム説明会資料）

資料 教育 18 e ラーニングシステム「Moodle」

Moodleへログイン

Webブラウザを起動して、
<http://moodle.yamanashi.ac.jp/moodle/>
へアクセスします。

CNSやYINS-DOCSと同じ、
YINS-SSOのログインIDとパスワードで
ログインします。

山梨大学 e-Learning ポータルページ

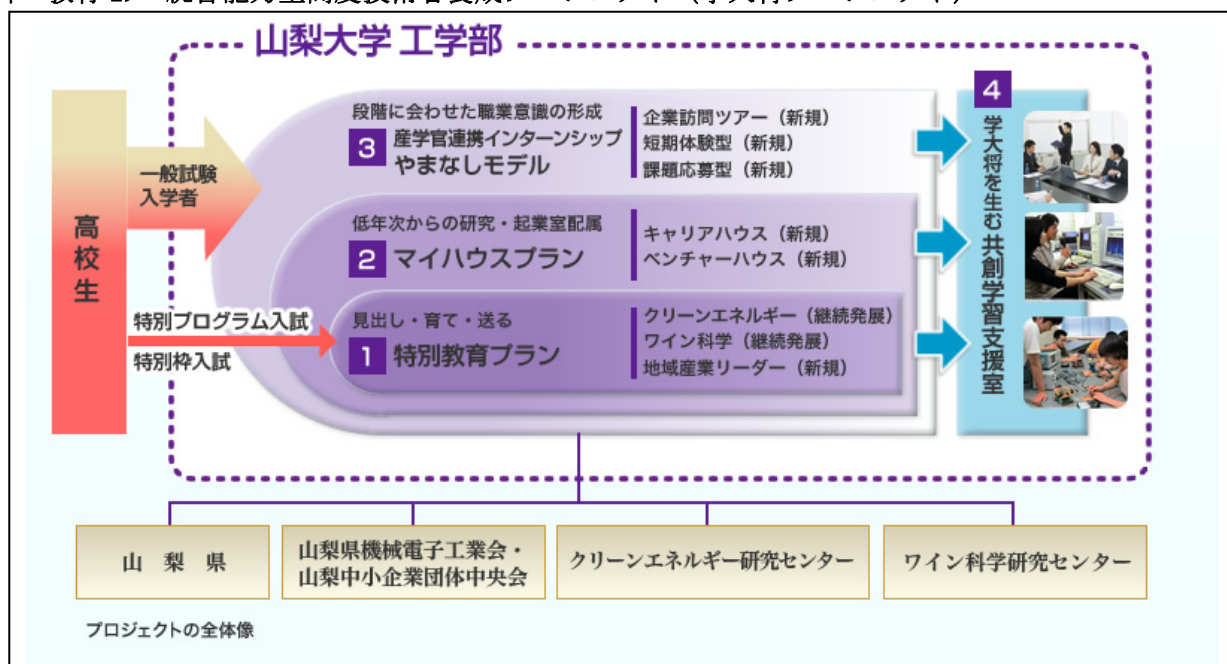
編集したい担当授業のコースや
閲覧したいコースをクリックします。

対象とするコースが
「マイコース」に表示されていない場合、
「すべてのコース」をクリックします。

編集したコースで設定したイベントなど
(例：課題の提出締め切り)が表示されます。

(出典：Moodle 講習会資料)

資料 教育 19 統合能力型高度技術者養成プロジェクト（学大将プロジェクト）



(出典：工学部ホームページ)

資料 教育 20 共創学習支援室（フィロス）

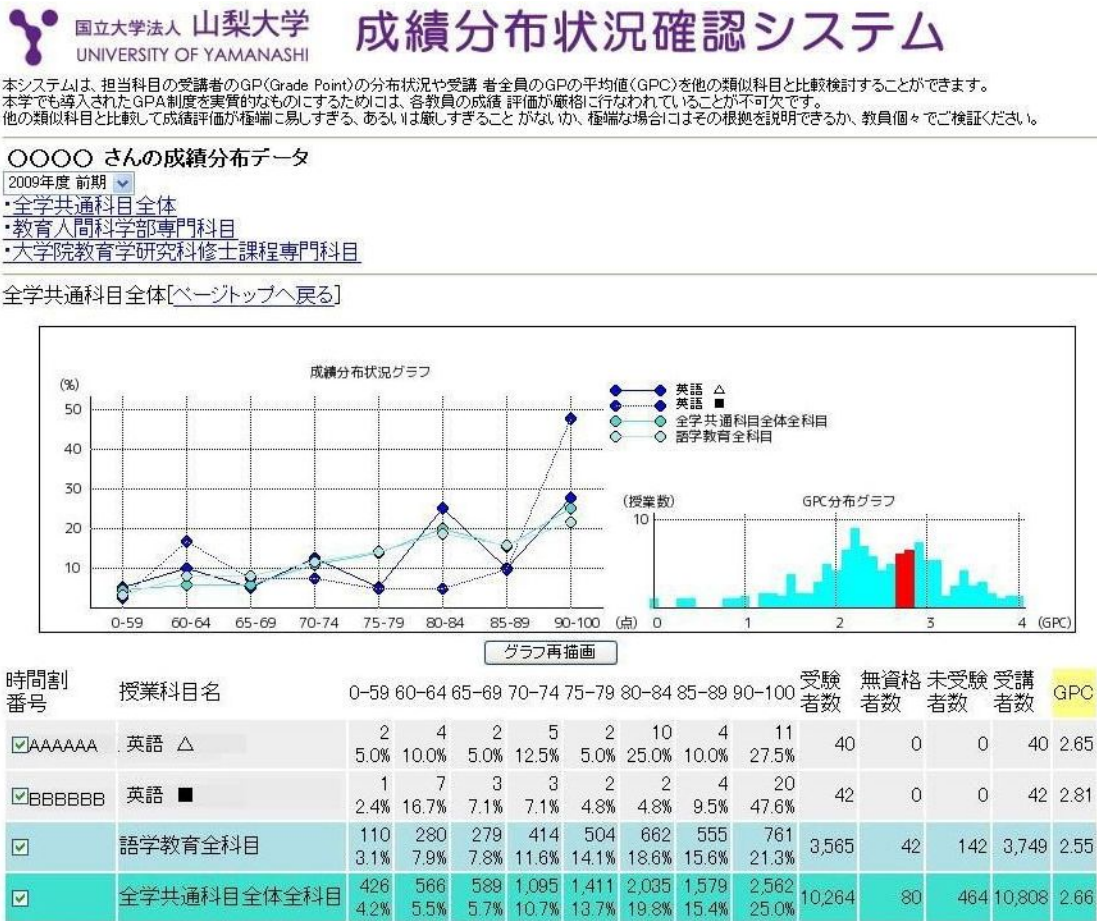
共創学習支援室(フィロス)

工学部学生が、学科の壁を越えて気軽に集まり学習交流を推進する場です。共同学習を進める中で、自発的リーダー(学大将)が育つ機会となります。例えば、特別教育プランおよびマイハウスプランで力をつけた学生が、それぞれのプランで得た学識や経験を活用して、生き生きとリーダーシップを発揮できるでしょう。それ以外でも、「予習・復習は大学で」を試みたい学生が一人二人と集まると、自然とリーダーが生まれると期待されます。勉強が進んでいる学生は、友人にアドバイスのことにより自分の理解をいっそう深め、さらに向学心を発展させた学生同士が自主的にテーマを決めてゼミ等形成するまで発展すれば成功と考えています。

フィロスはグループ学習室として学生に開放されていますが、放課後の時間帯には数学および物理を専門とする教職員が常駐してグループ学習や個人学習を支援します。平成22年度から山梨工業会館(地図)2階に専用室を設けて開室しています。

(出典：工学部ホームページ)

資料 教育 21 成績分布状況確認システム



(出典：教学支援部教務課資料)

資料 教育 22 プロジェクトY

「プロジェクトY:先輩達の挑戦」開催実績		
日時	講演者	講演テーマ
平成20年6月6日	丹野憲二(発酵生産 昭46卒) (財団法人日本食品分析センター専務理事)	「食品の微生物汚染についてー分析からの提言ー」
平成20年10月21日	金丸公春(電気 昭46卒) (日立電線株式会社技術本部技術研究所技師長)	「『伝える』を極める！～企業の研究開発活動」
平成21年1月19日	中村兵次(土木 昭40卒) (パシフィックコンサルタンツ株式会社技術顧問)	「技術屋人生を楽しんで・・・」
平成21年6月24日	山口 実(計算機 昭49卒) (カシオソフト株式会社代表取締役社長)	「カシオ計算機における企業人としての経験と、学生諸君への提言」
平成21年10月21日	遠藤好司(応用化学 昭49卒) (株式会社はくばく取締役専務執行役員)	「株はくばくで体験した企業の成長のトリガーとなる商品開発」
平成21年1月18日	久田志郎(精密 昭41卒) (シチズンセイミツ株式会社取締役相談役)	「時計製造を通して、中国での物作り／体制(組織)作りについて」

(出典：工学部資料)

資料 教育 23 山梨学

<授業の目的および概要> 山梨県の魅力となっている風土、施設、産業などについて、野外見学を交えて広く習得する。本講義を受講し、県の求める書式のレポートを提出した者の中から「山梨の魅力メッセンジャー認定」が行われる。 本講義は山梨県が推進する「山梨の魅力メッセンジャー制度」に基づいて、山梨大学と山梨県観光部が連携して行うものである。 <授業計画の概要> 本講義は野外見学を含めてすべて土曜日（講義は4回1－2時限、野外見学は2回1－5時限）に開講されます。あらかじめすべての日程が履修可能であることを確認した上で履修申告をしてください。 ★今年度（平成21年度）の開講日程★ 4/25,5/9,5/23,6/6,6/20,7/4 の6回です。このうち5/23と7/4の2回は野外見学です。 (講師予定) 4月25日 山梨の印伝 印傳屋 上原勇七、 5月9日 山梨のアクセサリ産業 ワイズジュエリー 松沢安行、 5月9日 山梨のワイン ボーベイスージュ 岡本英史、 6月6日 山梨の言葉と文化 山梨言葉の会 津田信吾、 6月6日 山梨のスポーツ ヴァンフォーレ甲府 海野一幸、 6月20日 富士山振興 山梨県立博物館 堀内亨、 6月20日 甲斐絹の伝統 前田源商店 前田富男

(出典：「山梨学」シラバス)

機構の組織とその目的・業務について

平成21年4月1日総合情報戦略機構が発足いたしました。本機構は、大学運営に係わる情報化を総合的に推進することを目的としておりますが、その運営組織である3室(情報支援室、情報戦略室、医療情報室)は以下の業務をつかさどっています。

・情報支援室

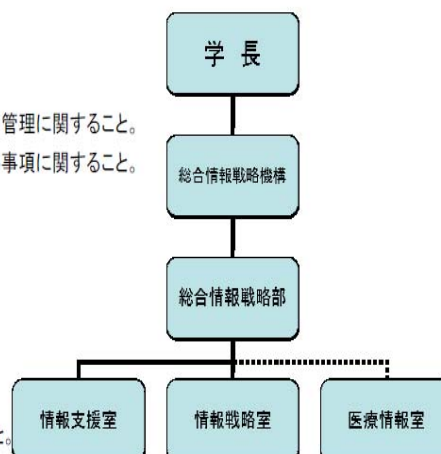
- (1)教育・研究及び事務処理等の支援に関すること。
- (2)情報システムの企画・立案、整備、管理及び運用に関すること。
- (3)業務支援システム(医療情報管理システムを除く)の企画・立案、整備、管理に関すること。
- (4)情報システムの構築に関し、他の部・課・室・センターの業務に属さない事項に関すること。
- (5)機構及び部の庶務及び連絡調整に関すること。

・情報戦略室

- (1)情報戦略の企画・立案及び実行に関すること。
- (2)情報セキュリティの確立及び遵守の促進に関すること。

・医療情報室

- (1)附属病院の情報管理に関すること。
- (2)病院情報管理システムの企画・立案、整備、管理及び運用に関すること。
- (3)附属病院の情報システムに関すること。



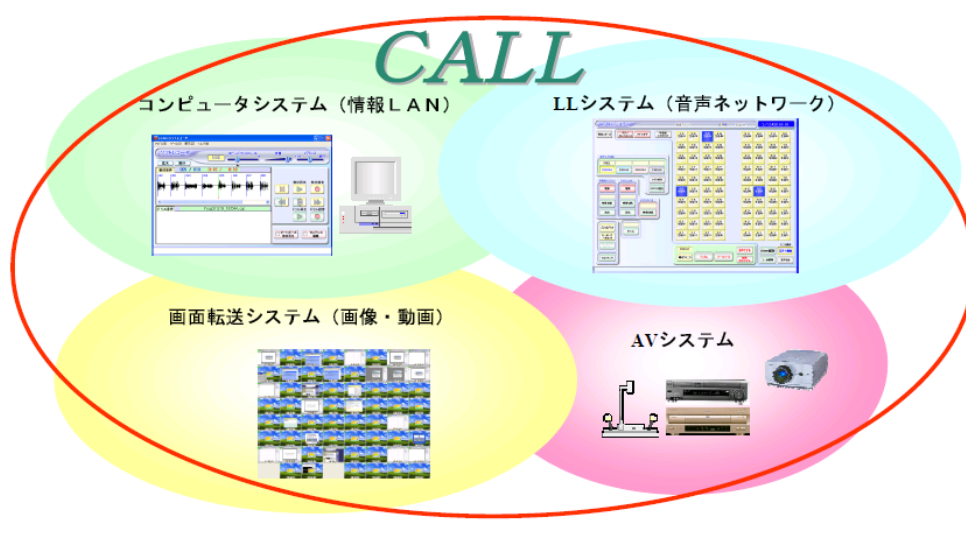
従来より、本機構の前身であるIT推進本部のもと総合情報処理センターと情報推進室では業務の相互連携を深め、情報基盤や教育研究システム及び業務システムなどの情報資産の有効管理・一元化を進めてまいりましたが、本機構はそれに加え、教務・図書館及び医学部附属病院の情報システムをも含めた真の全学(包括)的な組織となりました。

(出典：総合情報戦略機構 News 第1号)

CALLの概要

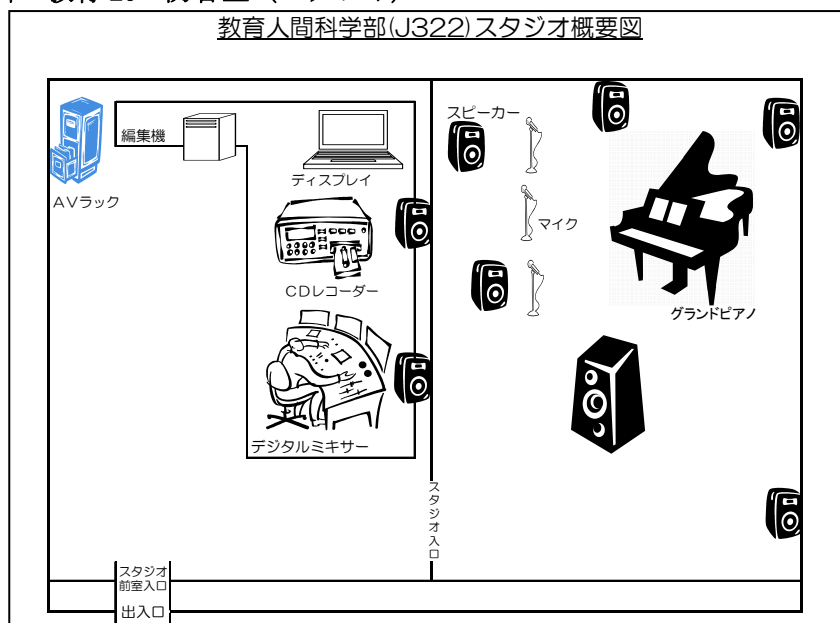
CALL (Computer Assisted Language Learning) 教室は語学の授業以外にも、多目的に使えるシステムです。

CALLシステムは、パソコンを主体としたマルチメディア語学システムです。従来のLLシステムの音声システム中心のシステムに対しCALLシステムは音声・映像・情報を併せたシステムです。



(出典：教学支援部教務課資料)

資料 教育 26 防音室（スタジオ）



防音室（スタジオ）は初等音楽科教育や音楽科内容論の授業で活用する「音楽的諸要素の理解を促す鑑賞教材CD」などの教材を作成したほか、語学教育や音楽教育に有効活用している。

（出典：教育人間科学部資料）

資料 教育 27 全学FD研修会開催実績

日時	内容
平成20年7月16日	山梨大学第8回全学FD研修会 「今なぜFD活動なのかを考える」
平成20年9月1日～2日	山梨大学第9回全学FD研修会 「学生理解の上に立った山梨大学の教育改善」
平成20年10月9日	山梨大学第10回全学FD研修会 「Moodle利用の第一歩」
平成21年5月8日	山梨大学第11回全学FD研修会 「Moodle利用の第一歩」
平成21年8月25日～26日	山梨大学第12回全学FD研修会 「学生・教員の協働による授業の創造」
平成21年10月15日	山梨大学第13回全学FD研修会 「Moodle利用の第一歩」

（出典：全学FD研修会実施要項）



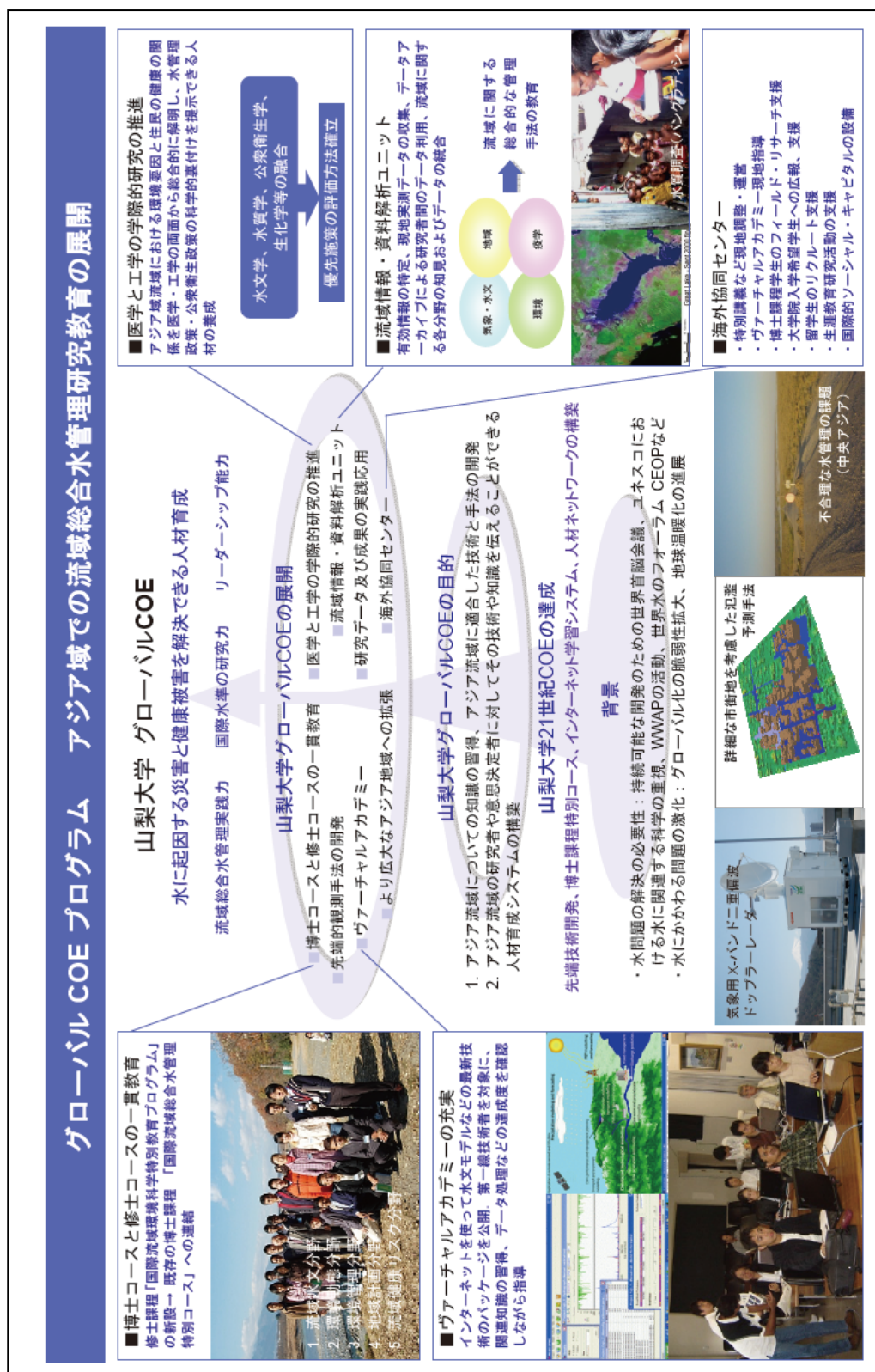
（出典：山梨大学大学院医学工学総合教育部ホームページ）

学生相談対応事例集	
目 次	
教 育 編	
I 学業に関する相談	
1. 科目の選択	1
2. 勉学の相談	1
3. 授業への苦情	2
4. 成績に関する異議	2
5. 教員とのトラブル相談	3
II メンタル面に関する相談	
1. 疎外感・劣等感	3
2. スチューデント・アパシー（無気力）	4
3. 教員との面談	5
III 進路変更等に関する相談	
1. 退学相談	5
2. 転学部や転学科の相談	6
3. 資格・免許に関する相談	7
4. 留学相談	8
5. 進路・進学相談	10
IV その他	
1. 外国人留学生のための相談	10
学生生活編	
I 学生・生活安全に関する相談	
1. 悪徳商法に関する相談	11
2. 交通事故に関する相談	15
3. アパート・下宿先等におけるトラブル相談	18
4. アルバイト先でのトラブル相談	20
5. ストーカー被害等のトラブル相談	22
6. 盗難・落し物のトラブル相談	25
7. 宗教関係のトラブル相談	27
8. 経済的な問題に関するトラブル相談	28
9. サークル関係のトラブル相談	29
10. ハラスメントに関する相談	30
11. インターネットに関するトラブル相談	31
II 精神的・身体的な健康に関する相談	
1. 保健管理センターの利用方法	32
2. 救急医療センターの利用方法	33

（出典：学生相談対応事例集）

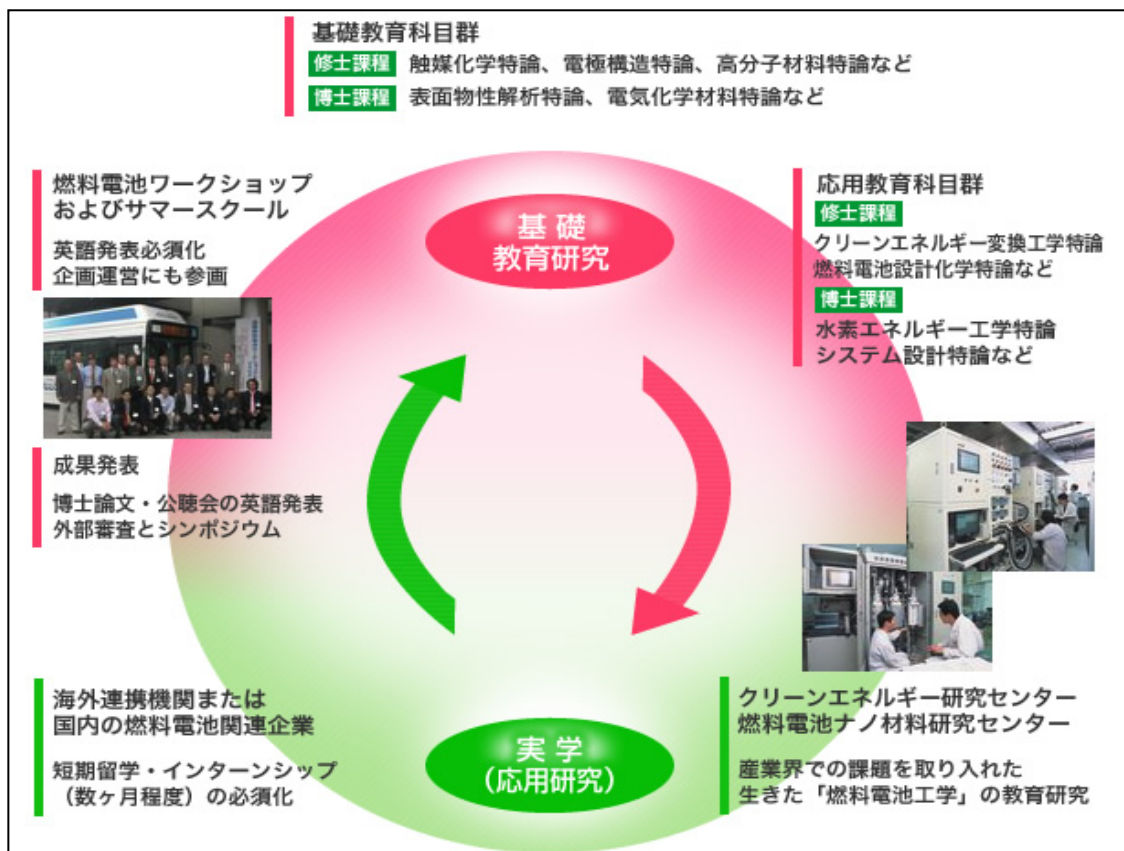
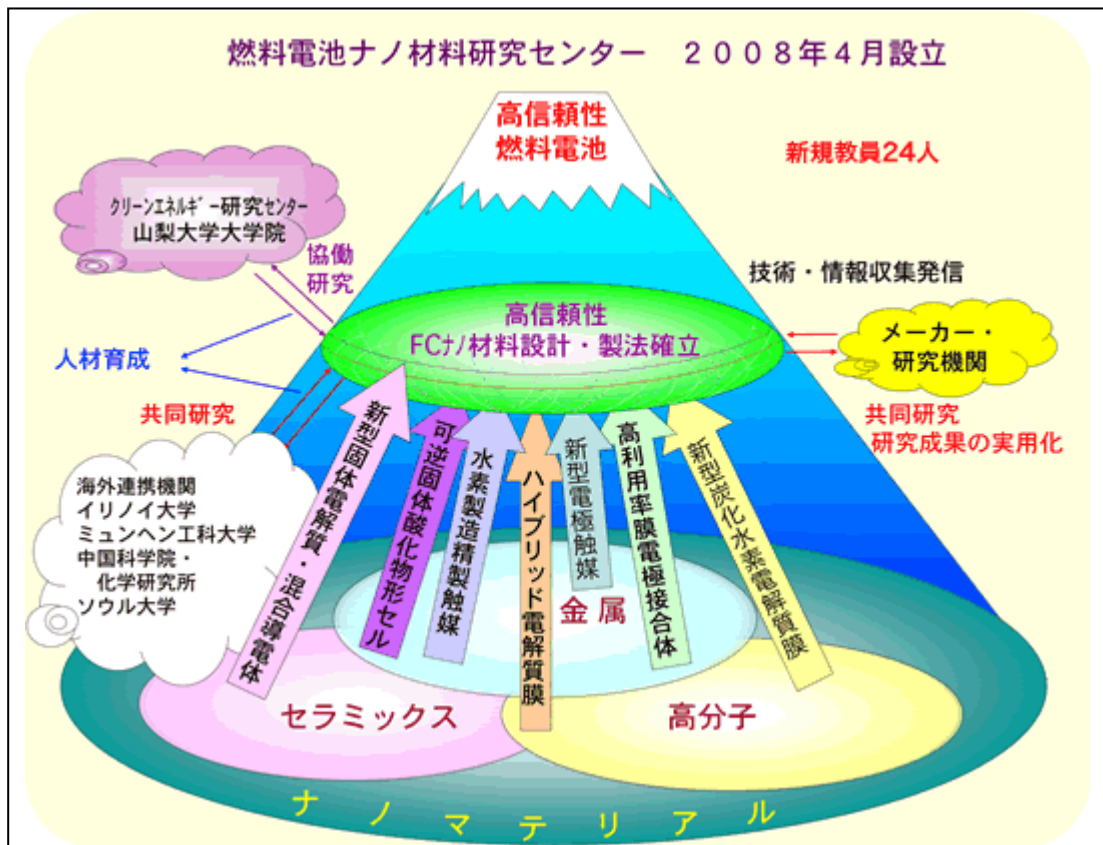
学生総合案内	学生相談「よろずボックス」
☞ 学生窓口案内 ☞ 修学基礎知識 ☞ 年間スケジュール ☞ 学生便覧・時間割表 ☞ 証明書・諸手続	学生生活やそれ以外自分の生活のどんなささいなことでも結構です。 困りごと、心配ごとがありましたら、気軽に書き込んでください。 山梨大学はどんなことでも相談に応じます。 もちろん、プライバシーを保護しより適切なアドバイスが受けられるように配慮いたしますので、記名又は連絡先をお知らせ下さい。
学生生活案内	

（出典：山梨大学ホームページ）



(出典：「アジア域での流域総合水管理研究教育の展開」ホームページ)

資料 研究2 燃料電池ナノ材料研究センターの概要及び教育研究概念図



(出典：燃料電池ナノ材料研究センターホームページ)

資料 研究3 高感度な可視光水分解光触媒の創製

研究の目的および内容：

太陽光に多く含まれる可視光照射のもと、水を完全分解できる光触媒材料を設計・創製し、水素を獲得することを通じて独創的クリーンエネルギー生成技術の創出に貢献する。既存の材料設計・探索指針の延長ではなく、新規戦略に基づく材料設計および新規機構に基づく水分解方法を提案し、可視光応答型水分解材料を創製を目指す。さらに、高効率化のため、材料の形態をナノレベルで制御することによって反応サイトを空間的に分離する方法やヘテロ接続構造の最適化によって電荷分離効率を向上する方法を検討する。

(出典：平成 21 年度年次研究計画書)

資料 研究4 地域産学官共同研究拠点



(出典：産学官連携・研究推進機構資料)

資料 研究5 コア・サイエンス・ティーチャー養成拠点構築事業



(出典：産学官連携・研究推進機構資料)

資料 研究6 国立大学附属学校における新たな活用方策に関する調査研究

■研究の目的

国立大学法人の附属学校には、従来から「大学・学部における教育に関する研究への協力」と「大学・学部の計画に基づく教育実習の実施」という二つの役割があったが、教員免許を卒業要件とする学生定員の縮減や私立大学による附属学校の設置などによって、こうした本来の機能の根拠が弱まりつつあり、またその存在理由が問われるようになってきている。本年3月の「国立大学附属学校の新たな活用方策等に関する検討とりまとめ」においても、附属学校の今日的存在意義を明確にし、附属学校の特性を活かした先導的・実験的な学校教育の実践への取組みを推進するために、まず各附属学校に即して現状と課題の分析がなされるべきだと述べられている。

(中略)

本研究の目的は、第一に、本学の附属学校園の現状と課題を、山梨県下の教育関係者を対象とするアンケート調査等によって精細に明らかにすることである。第二に、さらにそのうえで、本学の附属学校園の今日的存在意義を明確にするために必要な施策事項を洗い出し、地域や大学・学部と連携した附属学校園の新たな先導的・実験的な取組みの試行的研究を実施して、新たな活用方策を探究することである。その中には、県教職員人事政策の中での附属学校の高い位置づけと役割、地域のモデル校かつ実験校としての新機軸(幼-小-中一貫指導システムに向けた検証など)等が含まれる。

(出典：平成21年度先導的大学改革推進委託事業実施計画書)

この部分は著作権の関係で
掲載できません。

（出典：2009.3.20 科学新聞）



（出典：工学部資料）

資料 研究9 大脳聴覚野の直接電流刺激法による聴覚BMIの開発

3) 目的

覚醒動物の大脳聴覚野細胞の音刺激へのスパイク反応を研究し、次に聴覚野細胞のスパイク反応を摸して音入力をスパイク列出力に変換するインターフェイスを作成し、インターフェイスを介した聴覚野の直接電流刺激を行い、動物に聴覚を獲得させる。聴覚の獲得の有無は行動実験で確かめる。以上、本プロジェクトでは脳の直接電流刺激による動物の聴覚の獲得を目的とする。将来的には、一次聴神経以上の脳の聴覚上行路が障害された患者を含めたヒトにおいて聴覚野の直接電流刺激による聴覚の獲得を目的とする。

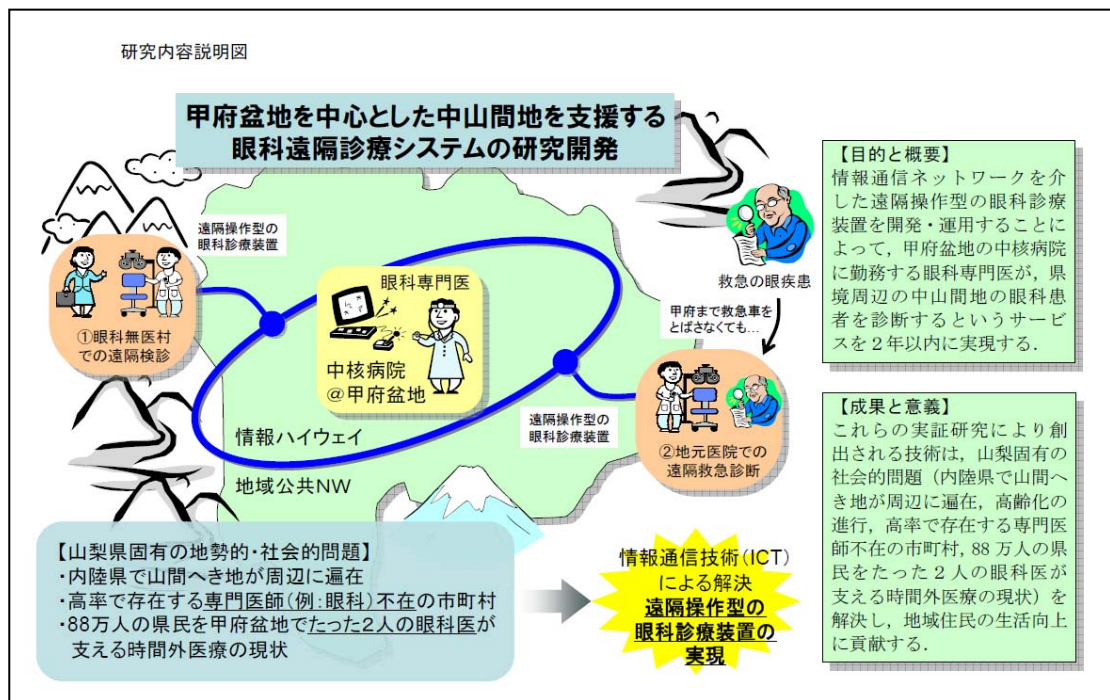
4) 概要

聴覚脳機能を代行するBMIの開発のためには、まずなによりも脳機能を知らなければならない。すなわち第一目標は聴覚脳機能を知ることである。認知させるべき音を動物に聞かせその音に対する聴覚野神経細胞のスパイク活動パターンを明らかにする。第二目標は聴覚BMIの作成である。スパイク反応の数理モデルを作成し、モデルをコンピュータに実装することにより、認知させるべき音情報を神経細胞のスパイク活動情報に変換する聴覚BMIを作成する。ここで聴覚BMIとは音のマイクロフォン入力をAD変換し、ソフトウェアによる音波波形からスパイク列への情報変換をし、DA変換し、刺激装置へTTL出力する機械と定義する。第三目標は聴覚BMIを用いた電流刺激実験の実施である。覚醒動物の聴覚野に慢性植え込み刺激電極を刺入し、作成された聴覚BMIを用いて実際に微小電流刺激を行う。

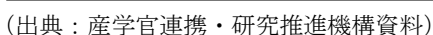
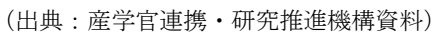
第四目標は行動実験による電流刺激効果の検証である。動物を、認知すべきターゲット音刺激でgo、コントロール音刺激ではno-go行動するよう訓練する。学習が成立後、音ではなくBMIを介した電流刺激でgo、no-go行動が成立するかどうかを立証する。以上の四目標が達成されて初めて大脳聴覚野の電流刺激による聴覚の獲得が達成されたと考える。

(出典：「大脳聴覚野の直接電流刺激法による聴覚BMIの開発」研究計画書資料)

資料 研究10 眼科遠隔診療システム



(出典：大学院医学工学総合研究部資料)



資料 研究 13 山梨大学発 "ビジネスチャンス"直行便！

山梨大学発 → → →
“ビジネスチャンス” 直行便！

No. 21-1
 平成21年3月10日発行
 山梨中央銀行
 公務・法人推進室
 甲府市丸の内 1-20-8

山梨中央銀行は、大学等の研究機関が保有する技術シーズと企業ニーズを結びつけ、新技術の開発や新規事業の創出を支援するリエゾン（橋渡し）活動に取り組んでいます。

本レポートでは、山梨大学の先生とその研究内容を紹介していきます。本レポートが、中小企業のみならず抱える経営課題の解決や新産業創出の“ヒント”となり、ビジネスチャンスにつながればと考えております。

<第26回>

**“植物”“微生物”を利用した
環境修復手法の研究**

～工学的な制御による低コスト、低エネルギー消費、
効率的な環境浄化システムの構築を目指す～

森 一博 先生（大学院 医学工学総合研究部 社会システム工学系 准教授）

■ どのような分野の研究をされていますか？

（出典：産学官連携・研究推進機構資料）

資料 研究 14 個別技術相談会

平成21年度個別技術相談会開催実績

	開催日	テーマ	参加 研究者数	参加企業(面談数)
第1回	H21.11.30（月）	機械	5名	7社（9件）
第2回	H22.1.18（月）	応用化学、材料	4名	5社（8件）
第3回	H22.1.27（水）	コンピュータ・メディア、電気電子	2名	6社（7件）
第4回	H22.2.17（水）	電気電子、循環、生命、ワイン研	5名	6社（8件）
第5回	H22.3.15（月）	機械、電気電子、コンピュータ・メディア	4名	5社（6件）

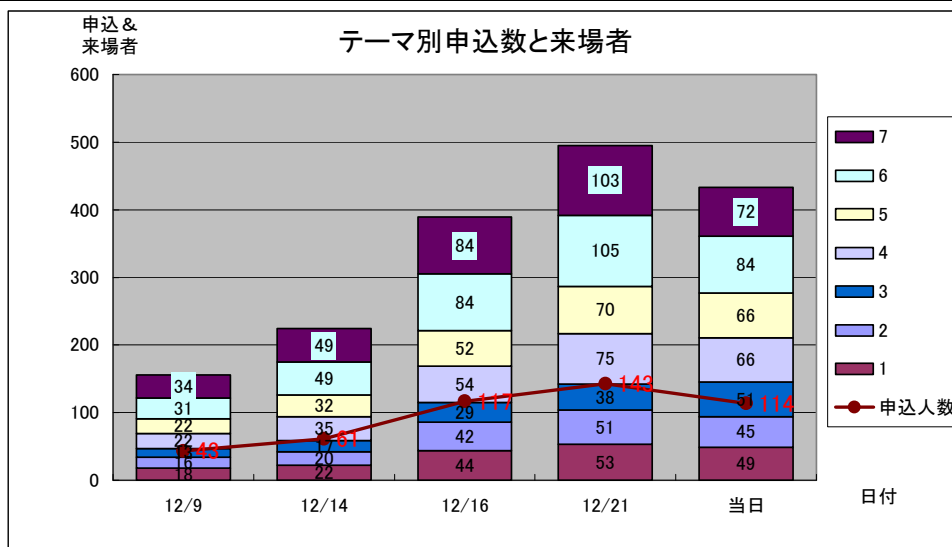
（出典：産学官連携・研究推進機構資料）

資料 研究 15 新技術説明会

山梨大学 新技術説明会

会 期 : 2009年12月22日(火) 12:50~17:00
 会 場 : 科学技術振興機構 JSTホール(東京・市ヶ谷)
 主 催 : 国立大学法人山梨大学、科学技術振興機構
 後 援 : 中小企業基盤整備機構

テーマ 番号	タイトル
1	安全・安心メールシステムの研究開発
2	カメラ撮影で読み取り可能な2値画像への情報埋め込み方法
3	踵の温度を考慮した踵骨音速による簡易的骨粗鬆症診断装置の開発
4	超臨界流体を用いた薄膜堆積
5	マンガン賦活グラセライト型ケイ酸塩化合物の紫外励起光下における赤色発光
6	高効率半導体太陽電池の構造およびその製造方法
7	高導電性と高透明性を両立させた有機薄膜－新規透明電極として期待－



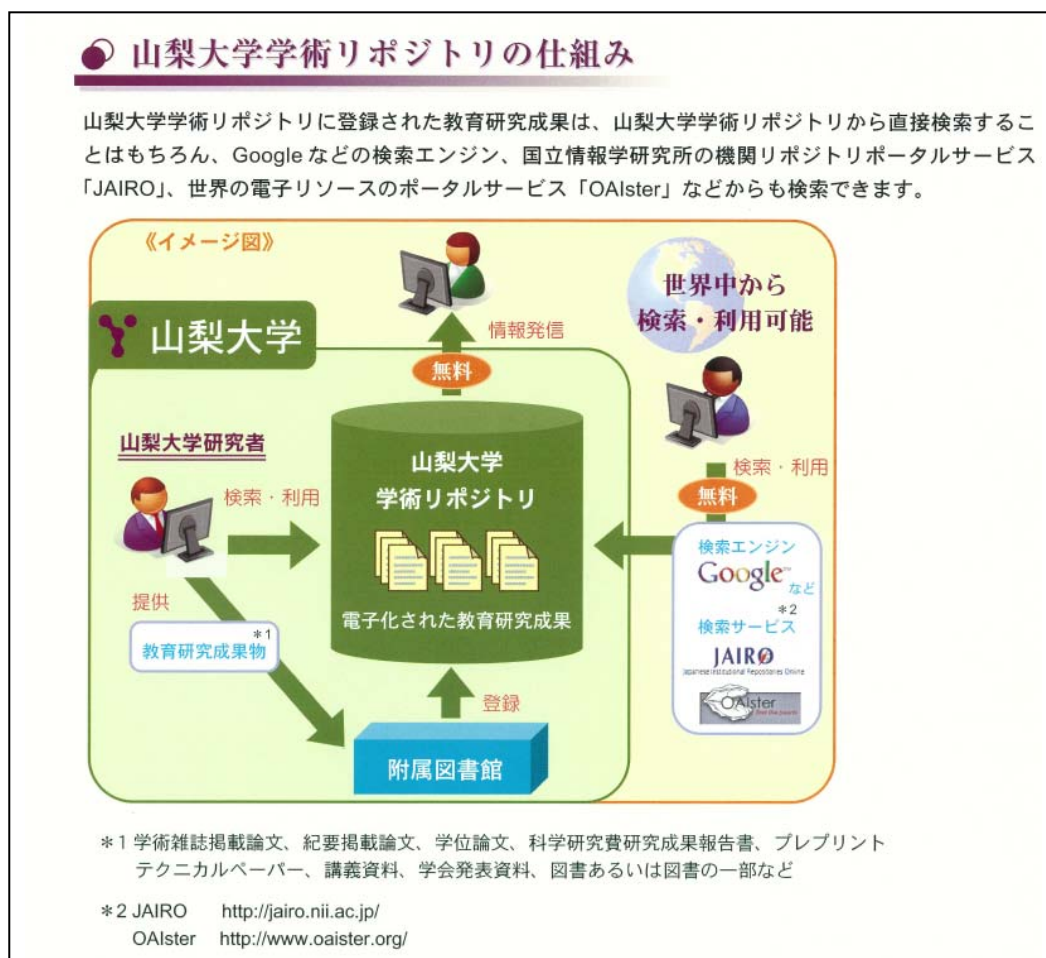
(出典：産学官連携・研究推進機構資料)

資料 研究 16 知的財産事業の国際展開

イベント名	JUNBA2010
開催日時	平成22年1月11日(月)～1月12日(火)2日間
会場	San Francisco Marriott (米国)
参加者	放射線医学 荒屋正幸(医員)、エイペックスメディカル(株)川上社長、河西知財マネージャー
出展ポスター	A b c h e s (放射線医学大西准教授が発明し、エイペックスメディカルが製品化した放射線治療に用いる呼吸モニタリングシステム) 研究説明2枚
展示物	A b c h e s 実物
内容	1日目のサミットでは大学の国際展開を教育面からの検討を傍聴した。2日目は「Innovative Medicine and Technology」をテーマに、医療機器、感染症、再生医療の3部門に分けてテクノロジーフェアが開催された。山梨大学からは、医学部放射線医学講座の大西先生が発明し、エイペックスメディカルが製品化した、放射線治療時に用いる呼吸モニタリングシステム「アブチェス」を発表した。本年は米国企業の参加が少なかったが、臨床医の視点から生まれた発明を企業が製品化し、実際に利益を上げている成功例として注目を集めた。

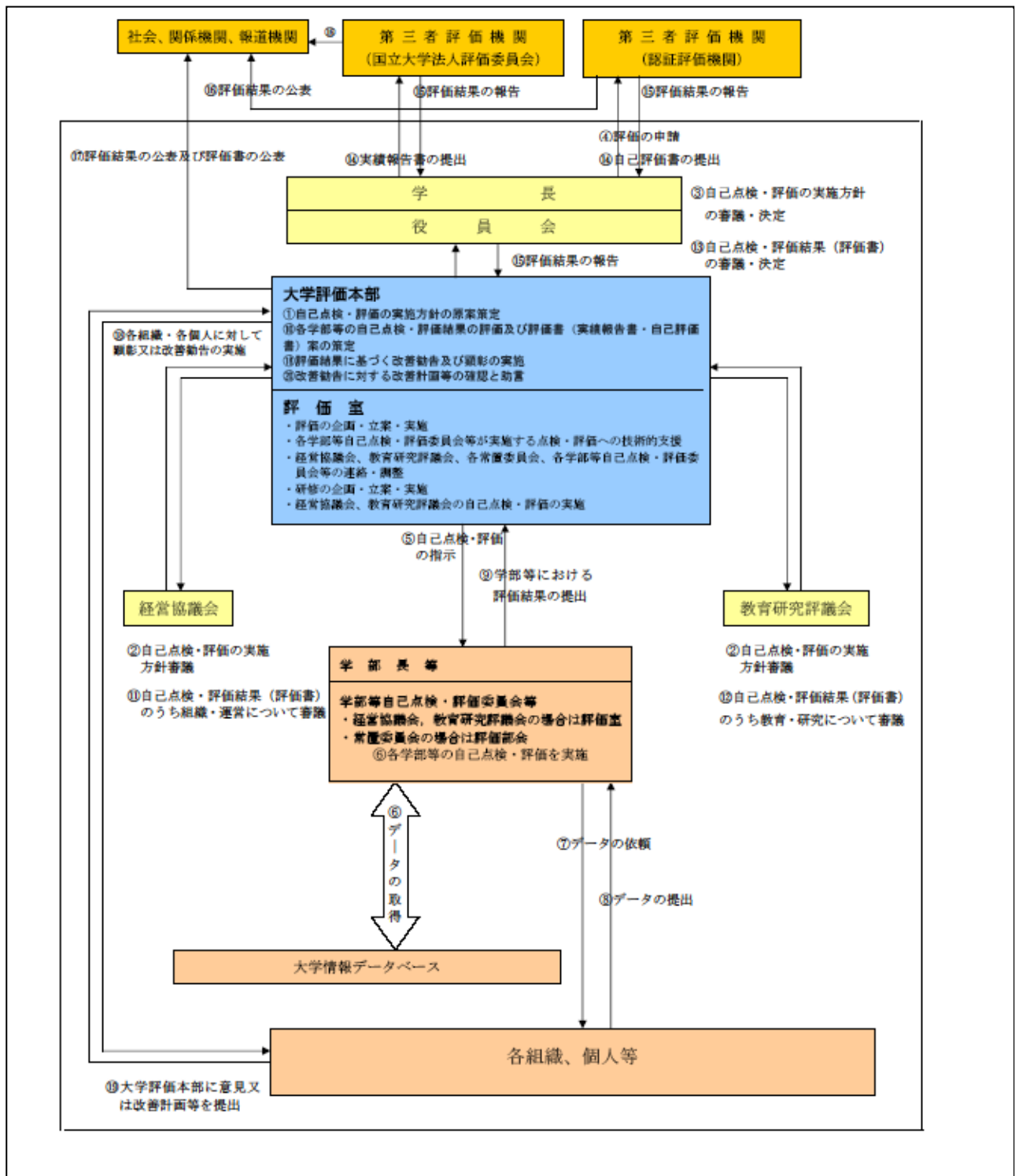
(出典：産学官連携・研究推進機構資料)

資料 研究 17 山梨大学学術リポジトリ



(出典：附属図書館資料)

資料 研究 18 自己点検・評価システムフロー



(出典：大学評価本部会議資料)

資料 研究 19 教員個人評価

○山梨大学における教員の個人評価方針（抜粋）

第1 目的

国立大学法人山梨大学（以下「本学」という。）は、教員個人の活動状況について点検・評価し、もって本学の教育、研究等の向上に資するよう、以下のことを目的として教員の個人評価（以下「教員評価」という。）を実施する。

- 1 教員は、自己の諸活動を自己評価し、また客観的評価を受けることによって、諸活動の改善と自己啓発に努め、もって本学の理念の実現を図ることに寄与する。
- 2 教員一人ひとりの諸活動が社会や大学に対して責任があることを認識し、その成果を社会に還元し、社会に対する説明責任を果たす。
- 3 アクティビティの高い能力ある教員に適切なインセンティブを与える。
- 4 組織を活性化し、法人の経営改善に役立てる。

第9 評価結果の活用

- 1 評価結果は、教員の再教育、勤務環境、表彰、一時金、賞与、教育研究費、研究スペース、教員人事等に反映させる。
なお、評価結果の各教員への反映の方針及び実施方法は別に定める。
- 2 大学評価本部長は評価結果を学部長等に通知し、学部長等は各教員に通知する。各評価領域又は総合評価で、「やや問題があり、改善の余地がある」及び「問題があり改善を要する」と評価された教員は、通知後一か月以内にその評価期間における活動改善報告書（別紙様式5）を所属する学部長等に提出する。学部長等は「問題があり改善を要する」と評価された教員に面接し、活動改善報告書に基づき、活動の改善について適切な指導及び助言を行う。

（出典：「山梨大学における教員の個人評価方針」）

○優秀教員奨励制度

- (1) 各学部からの推薦に基づき次のとおり反映させる。

① 特別表彰

毎年度、教育人間科学部1名、医学部3名及び工学部2名に対し表彰状を授与し、併せて教育研究費30万円を配分する。

② 研究特別奨励賞

教育人間科学部にあっては隔年度1名、医学部にあっては毎年度1名（ただし、隔年度で1名を追加する。）、工学部にあっては毎年度1名の合計3名に対し表彰状を授与し、併せて戦略的プロジェクト経費の中に設けた特別教育研究経費100万円を配分する。

③ 特別報奨

毎年度、教育人間科学部にあっては1名、医学部にあっては3名、工学部にあっては2名に対し表彰状を授与し、併せて6月期の勤勉手当の成績区分において「特に優秀」と位置付ける。

④ 表彰

上記の①、②又は③の事項いずれにも該当しない者には、表彰状を授与する。

- (2) (1)の①から④までの事項は、同一の者に対して同一の年度に重複して適用しない。

- (3) (1)の①から③までの事項のいずれかを適用された者は、その後の2ヶ年度の間は、その適用を受けない。

（出典：「教員の個人評価結果の反映に関する要領」）

○報奨金制度

毎年6月期の勤勉手当において獲得した外部資金（間接経費）の額に応じて勤勉手当の成績率に加算する。

（出典：「勤勉手当における外部資金獲得特別評価について（学長裁定）」）

資料 研究 20 科学研究費補助金未申請者に対する調整の取扱い

科学研究費補助金未申請者に対する調整の取扱い（抜粋）

平成 21 年 3 月 11 日
学 長 裁 定

科学研究費補助金の申請を行わなかったことによる教育研究経費の学内配分予算の調整について、以下のとおり定める。

（目的）

- 1 科学研究費補助金の申請及び採択の状況が、広く大学の研究活動に対する指標となっていることから、常勤の教員については科学研究費補助金への申請を義務とし、研究費の一部は獲得した科学研究費補助金を含む外部資金の間接経費によりまかなわれていることを理解し、自らの研究経費について自ら獲得する努力を促すことを目的とする。

（調整対象者及び除外者）

- 2 常勤の教員で、当該申請年の科学研究費補助金に申請しなかった者については、学内予算配分の調整対象者とする。ただし、次の各号のいずれかに該当する者であると学長が判定した場合は、調整対象者から除外する。
 - (1) 申請年の翌年に退職が予定され、研究期間が 1 年に満たないこととなる者
 - (2) 職務上、研究に従事しない者(専ら教育を担当する教員、派遣教員、病院経営管理部の教員、キャリアセンターの教員、産学官連携・研究推進機構の教員)
 - (3) 継続となる科学研究費補助金の研究代表者であるため、他の種目に応募ができない者
 - (4) 申請年の 9 月 1 日現在、休職している者
 - (5) 他の外部研究資金(当該年度 500 万円以上)による研究を遂行しているため、科学研究費補助金への申請が困難な者
 - (6) 申請年の翌年に、長期国外研修等業務上の理由又は心身上の長期加療等の理由により、十分な研究期間を確保できないこととなる者
 - (7) その他、特別な事情があると学長が認める者

（調整対象除外の判定）

- 3 前項ただし書きにおける調整対象者から除外する者の判定については、学長が次の各号の書類を参考に、必要に応じ関係者と協議のうえ決定する。
 - (1) 前項第 1 号から第 4 号に該当する者に関する研究推進室による対象除外報告書
 - (2) 前項第 5 号から第 7 号に該当する者から所属学部等の長に宛てた申立書

（調整の内容）

- 4 財務管理部長は、第 2 項及び前項により決定された調整対象者の翌年度の学内予算の教育研究経費について、科学研究費補助金を申請しなかった年数により、次の各号のとおり調整する。
 - (1) 減額率（1 年につき 10%）に基礎額を乗じた額を減額する。
 - (2) 連続して申請がない場合は、減額率を累積して減額する。
 - (3) 減額率に対応する基礎額は、各学部等で当該教員に配分された教育研究経費の額（又は研究費相当額）とする。

（減額した研究費の使途）

- 5 学長裁量経費として、若手研究者等の研究支援に資する。

（その他）

- 6 その他、この取扱いに定めのない事項については、学長がこれを定める。

附 記

この取扱いは、平成 21 年 4 月 1 日から適用し、対象となる科学研究費補助金の申請は、平成 21 年 1 月申請時分（平成 22 年度申請分）からとする。

（出典：「科学研究費補助金未申請者に対する調整の取扱い」）

資料 研究 21 教育研究高度化支援体制整備プロジェクト



教育研究高度化支援体制整備プロジェクトによる人材雇用実績

プロジェクト	雇用者			継続者
	新規	振替	計	
先端研究支援プロジェクト	18	1	19	10
教育環境高度化支援プロジェクト	9	8	17	7
国際対応・キャリア支援プロジェクト	4	1	5	1
研究運営支援プロジェクト	13	21	34	24
計	44	31	75	42

(出典：産学官連携・研究推進機構資料)

資料 研究 22 研究時間を保証する制度の検討

平成 20 年度第 1 回総務常置委員会議事要録（平成 20 年 12 月 19 日開催）（抜粋）

3 サバティカル休暇制度について

小島委員長から、サバティカル休暇制度に関し、大学評価本部の判断との関係等について、資料 3-1～5 により説明があり、審議の結果、これまでの経緯等を踏まえ、各学部において意見等がある場合は、1 月 16 日（金）までに委員長または人事課へ申し出ることとした。

平成 20 年度第 2 回総務常置委員会議事要録（平成 21 年 3 月 4 日開催）（抜粋）

- ・ サバティカル休暇制度については、現状の研究休職制度の活用を図ることとした。

(出典：総務常置委員会議事要録)

資料 研究 23 インキュベーションセンター

H21年度 インキュベーションセンター使用実績					
(平成22年3月31日現在)					
研究室名	面積	入居代表者	共同研究先等	研究テーマ	備考 (使用料：円)
第1研究室	97㎡	ものづくり教育実践センター 准教授 平晋一郎	学内プロジェクト	電気自動車の試作研究および製作	144,500
第2研究室	91㎡				
第3研究室	51㎡	電気電子システム工学科 教授 松本俊	(株) 中家製作所	FPD用ガリウム添加酸化亜鉛透明導電膜の低温成膜装置の開発	306,000
第4研究室	47㎡	ロッタ(有) 代表 森英雄	大学発ベンチャー	次世代インテリジェント車いす「ひとみ」の実用化研究	346,815
第5研究室	70㎡	理事 古屋長一	理研計器(株)	カーボン系ガス拡散膜の量産化技術の検討	350,000
第6研究室	48㎡	(共通機器室)			
第7研究室	51㎡	クリーンエネルギー研究センター 准教授 佐藤哲也	(株)山梨技術工房	イオナイザー用放電針に関する研究	306,000
第8研究室	97㎡	クリーンエネルギー研究センター 教授 入江寛	東京大学NEDO事業	「クリーンエネルギーを獲得のための材料開発」	582,000
第9研究室	47㎡	(株) コレスト 代表 千里裕通	大学発ベンチャー	個人情報保護のための匿名電子メール(匿名双方向通信)技術、およびその周辺技術の研究開発	301,145
第10研究室	24㎡	機械システム工学科 助教 石田和義	岡谷市ナノ加工研究会	フェムト秒レーザーを用いた微細加工の実用化に関する研究開発	144,000
第11研究室	23㎡	電気電子システム工学科 准教授 矢野浩司	(株)豊田中央研究所	超低損失・高信頼性炭化珪素静電誘導トランジスタの研究開発	138,000
第12研究室	12㎡				
研修室	93㎡	(株)光輝 取締役 宮川泰一	工学部 山崎教授	地域振興支援のためのデータベースシステムの研究開発	476,310
会議室	51㎡	(共通利用)			

<使用料>
 平成21年度 3,094,770円
 平成20年度 1,801,620円

<整備状況>
 クリーンブース設置(第1、第2研究室)【H21.3】*床修繕、機器撤去含む。
 電子錠設置【H21.3】
 電気個別メータ設置【H21.8】

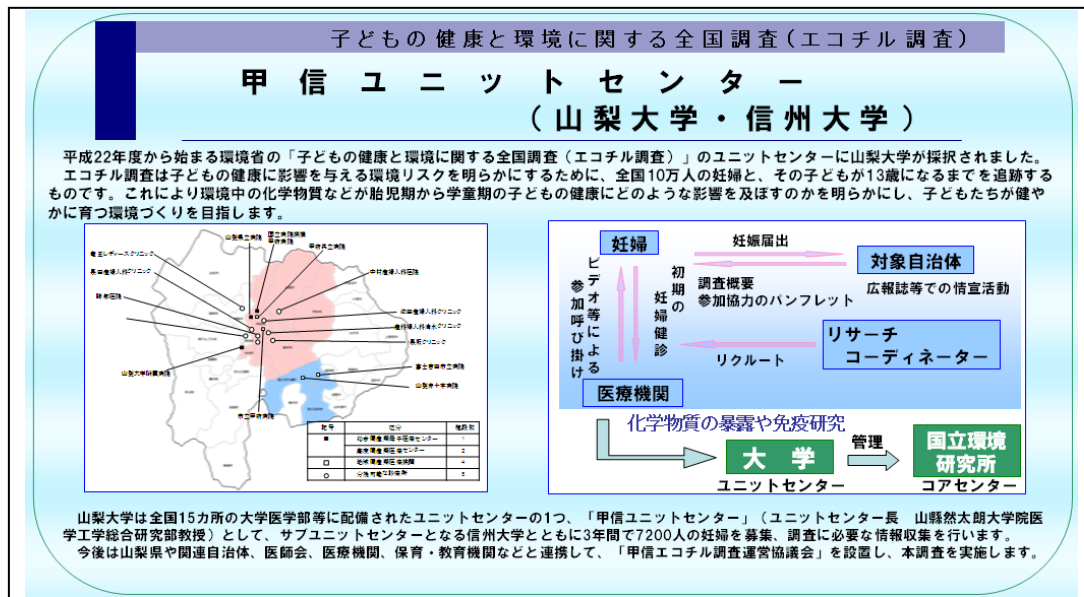
(出典：産学官連携・研究推進機構資料)

資料 研究 24 研究費補助金の入金前使用に係る資金立替

国立大学法人山梨大学における研究費補助金の入金前使用に係る資金立替取扱要項(抜粋) 学 長 決 定 制定 平成18年4月21日 改定 平成19年4月 1日 平成20年4月21日 (目的) 第1条 この要項は、国立大学法人山梨大学(以下「本学」という。)において、教員等が研究費補助金の研究代表者等として前年度に継続分として当該年度の交付内約を受けた場合及び新規に交付の内定を受けた場合並びに委託事業の契約を締結した場合に、研究資金が入金する日までに研究を実施するために使用(以下「入金前使用」という。)する金額を本学が一時的に立替えるための必要な事項を定め、もって、研究の円滑な推進と研究費補助金の適正な経理に資することを目的とする。
--

(出典：「国立大学法人山梨大学における研究費補助金の入金前使用に係る資金立替取扱要項」)

資料 研究 25 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）



(出典：産学官連携・研究推進機構資料)

資料 研究 26 山梨大学研究シーズ紹介CD-ROM

山梨大学研究シーズ紹介CD-ROM

Point 1 山梨大学の研究を1枚のCD-ROMにまとめました！

山梨大学に所属するすべての研究者に対してアンケートを実施したもので、研究テーマごとにコンパクト(A4-1頁)にまとめたものを1枚のCD-ROMに収録しました。山梨大学の研究内容を広く知っていただくことにより、本学の研究シーズと企業ニーズをマッチングさせた共同研究等へと発展させたいと考えております。

収録数

- 研究者数：517人
 - 工学部：173
 - 医学部：233
 - 教育人間科学部：95
 - 学内共同利用施設：16
- 研究テーマ数：613テーマ
 - 工学部：224
 - 医学部：277
 - 教育人間科学部：92
 - 学内共同利用施設：20

Point 2 学部や研究分野、キーワードで検索できます！

CD-ROMに収録の研究テーマは、右図の検索画面から検索ができます。

検索項目

- ・所属学部、学科
- ・氏名
- ・研究分野
- ・キーワード
- ・研究タイトル

UNIVERSITY OF YAMANASHI

Point 3 研究のポイントをコンパクトに掲載しています！

研究テーマ名
研究の概略
・目的
・成果
・課題
・将来の展望 等
類似研究との相違、優位性
応用産業分野
製品などの具体例
社会貢献分野
可能な活動 など

研究分野
キーワード
所属・研究者名
研究段階、研究期間
特許の有無
共同研究の実施状況、希望の有無

Point 4 産学官連携の検討に必要な情報を掲載しています！

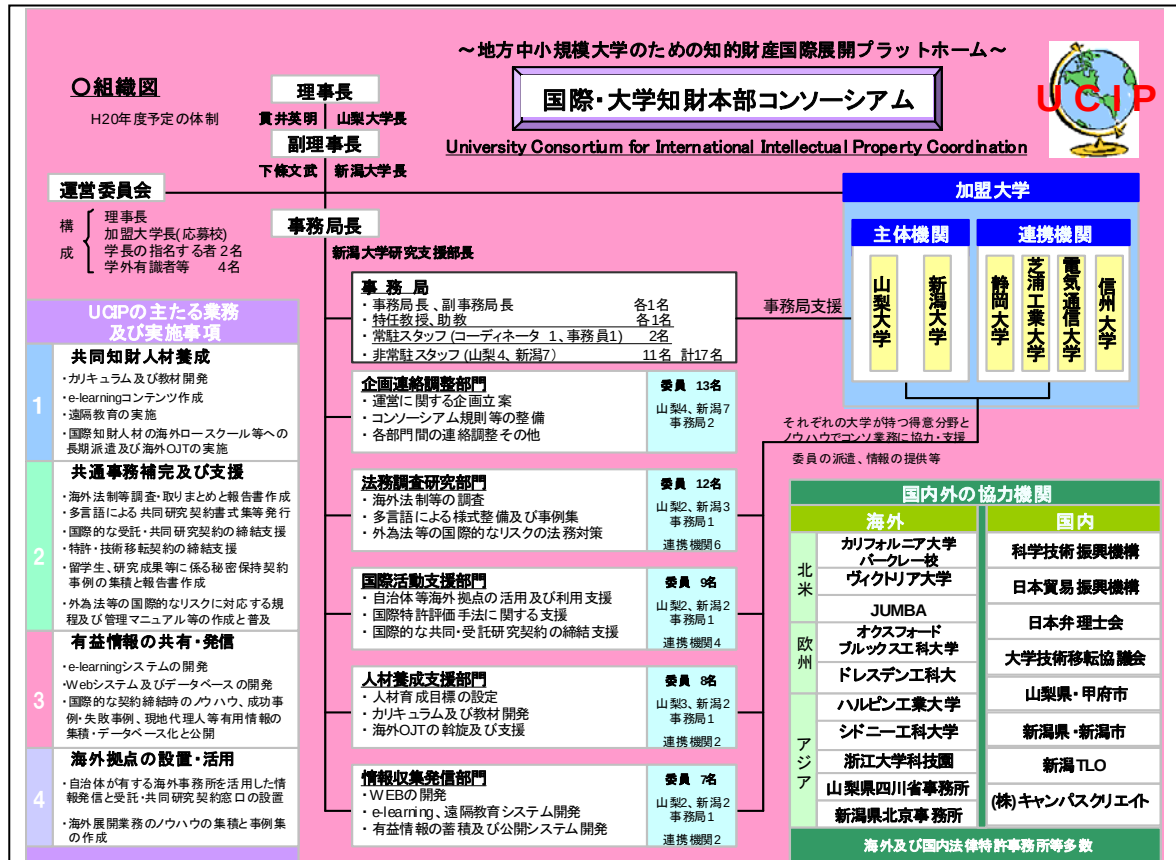
企業等の皆様が産学官連携を検討する際に参考となる下記情報についても掲載しております。

- 類似研究等との相違点、優位性、新規性
- 応用産業分野、製品
- 社会貢献分野、可能活動形式
- 現在の研究段階(基礎・応用・実用化)
- 特許出願、特許権の有無
- 共同研究の希望の有無

Point 5 山梨大学ホームページでも公開しています！

CD-ROMに収録の研究内容は、大学ホームページでも公開しています。
<http://chizai.yamanashi.ac.jp/Search/Search.html>

(出典：産学官連携・研究推進機構資料)



(出典：産学官連携・研究推進機構資料)

資料 社会1 プロサッカーチーム（ヴァンフォーレ甲府）とのグラウンド使用に関する覚書

覚書（抜粋）

国立大学法人山梨大学（以下「甲」という。）と株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ（以下「乙」という。）は、以下のとおり覚書を締結する。

（目的）

第1条 甲は、所有する医学部キャンパスグラウンド（以下「グラウンド」という。）を利用し、地域におけるスポーツの振興に役立てることとし、乙と共に今後更にスポーツを通じた地域貢献を推進していく。

（事業内容）

第2条 甲は、グラウンド（約1万㎡）を乙に貸与し、サッカー競技の振興を図るとともに、地域におけるスポーツの振興についても寄与する。

乙は、甲の行う教育、研究並びに診療に関し貢献するとともに、甲、乙共に県民等周辺住民に対する社会貢献に寄与する。

（グラウンドの施設整備）

第3条 乙は、乙の負担によりグラウンドにサッカーコートと関連施設を整備したうえで甲に寄贈する。

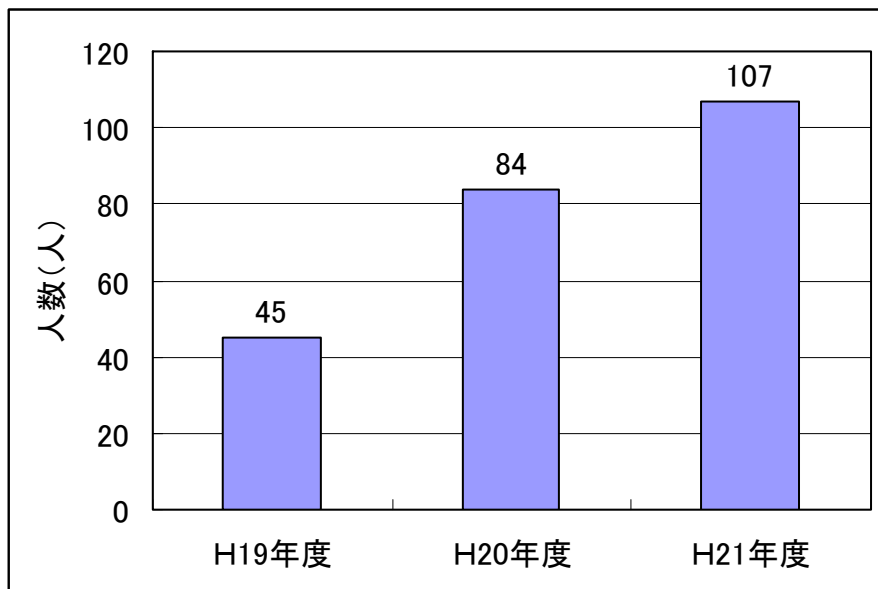
2 前項の施設整備並びに使用にあたっての詳細等については、甲乙協議の上、別に定める。

（社会貢献等）

第4条 甲の行う教育、研究並びに診療に関する乙の貢献、県民等周辺住民に対する社会貢献については、甲乙協議の上、別に定める。

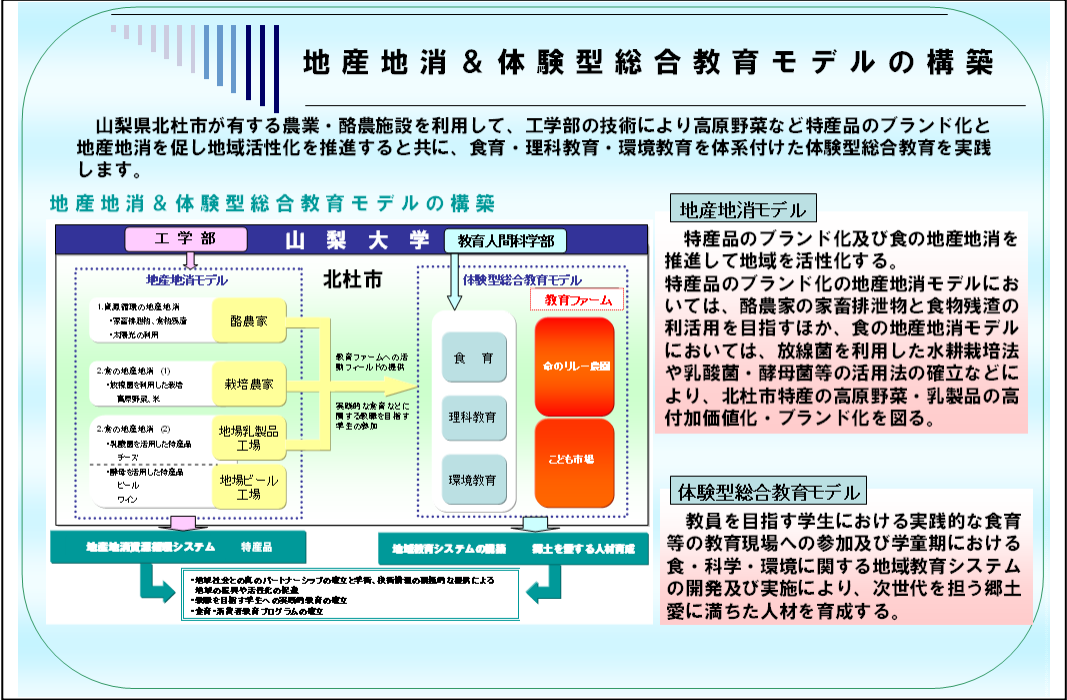
（出典：財務管理部会計課資料）

資料 社会2 客員社会連携コーディネーターの増員



（出典：産学官連携・研究推進機構資料）

資料 社会3 地産地消&体験型総合教育モデルの構築



(出典：産学官連携・研究推進機構資料)

資料 社会4 国際交流協定一覧

平成20年度以後の国際交流協定締結

部局名	国名	大学等名	締結年月日
山梨大学	カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学 イングリッシュ・ランゲージ・インスティテュート	2008.10.29
	中国	杭州電子科技大学	2008.12.18
	韓国	ソウル大学	2009.1.8
医学部	中国	大連医科大学	2008.10.27

(※) 平成19年度以前を含むと大学間交流協定17、学部間交流協定15

(出典：国際交流室資料)

資料 図書1 附属図書館（本館）貸出冊数と入館者数

貸出冊数

(冊)

	19年度	20年度	21年度
教育人間科学部	6,208	7,050	10,271
工学部	9,870	11,296	13,756
医学部	1,308	910	1,279
院生・研究生	4,270	4,199	5,168
教員・事務	1,572	1,864	2,257
学外者等	707	916	1,296
年度別合計	23,935	26,235	34,027

19年度比 42%増

20年度比 30%増

入館者数

(人)

	19年度	20年度	21年度
4月	7,610	8,740	10,189
5月	12,625	11,949	11,960
6月	13,642	13,509	15,409
7月	18,288	20,224	20,246
8月	6,949	6,439	6,330
9月	2,410	2,596	2,746
10月	10,170	10,228	9,883
11月	12,351	10,657	12,095
12月	9,660	9,532	10,144
1月	12,006	12,447	13,397
2月	10,143	9,638	11,450
3月	2,105	1,729	2,535
合 計	117,959	117,688	126,384

19年度比 7%増

20年度比 7%増

(出典：附属図書館資料)

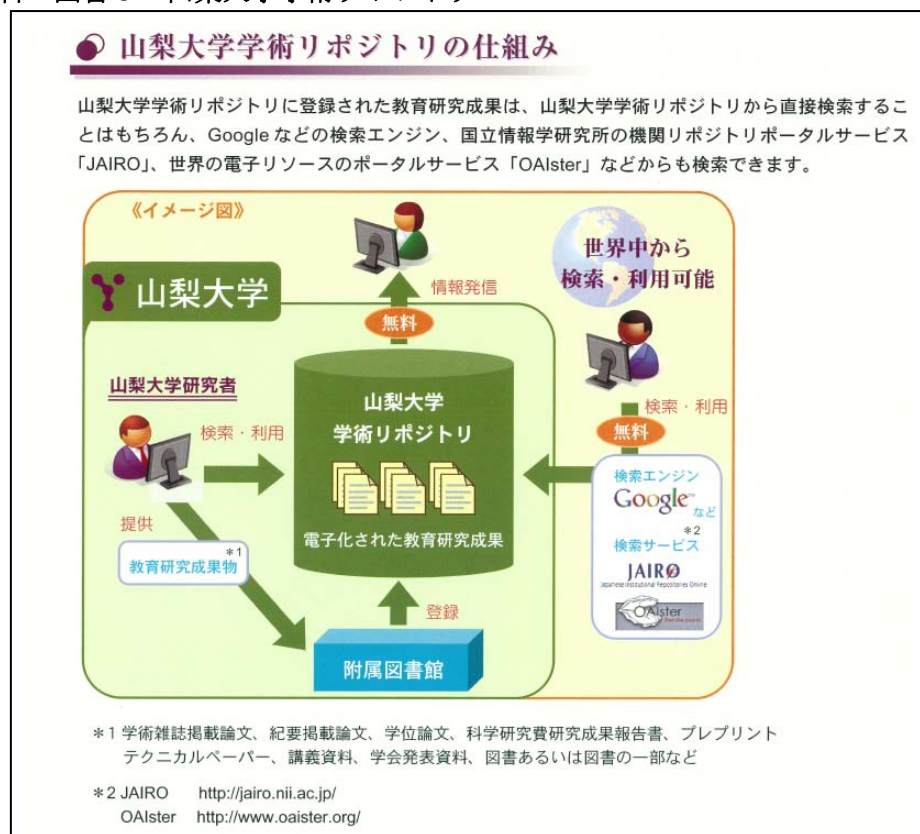
資料 図書2 学生用図書選定方法の改善

平成21年度学生用図書選定方法の改善について

従来選定方法	新選定方法
1 各学部学生数及び文・理系を勘案した予算を元に各学部図書に推薦を依頼 2 文書にて依頼し、推薦のあった図書について一覧を作成 3 推薦図書を委員会で審議の上、一括して発注 4 納品の有った図書を図書館内に分類ごとに配架	1 各教員に直接、推薦を依頼。同時に推薦理由の記載を義務化する。予算枠は撤廃する。 2 推薦図書名及び推薦理由を学内イントラシステムに入力願う 3 推薦のあった図書は随時購入とする(迅速化)。 4 新規納入本については、分類ごとに配架せず、目に付きやすい入口付近に集中させる(新刊書コーナー(仮称)の設置)
問題点	改善点
教員の推薦から閲覧に供するまでの時間がかかる(約2ヶ月) 推薦図書を紙でやり取りしており、教員・事務共に雑務に追われる 図書の購入意図がわかりづらい 最近の本なのか、数年前の本なのか判別がつきにくい	推薦から購入までを最短で10日程度に短縮が可能 学内イントラシステムの利用により、データの受け渡しが容易に出来る。通年で推薦を受ける事も可能となる。 各図書に推薦理由を付する事により、学生が本を選びやすくなる 新刊書コーナーを設置(書架6〜7本)し、館内への配架を1年程度遅らせる

(出典：図書館運営委員会資料)

資料 図書3 山梨大学学術リポジトリ



(出典：附属図書館資料)

資料 図書4 附属図書館主催イベント等

平成20年度
山梨大学附属図書館近代文学文庫関連イベント 講演会「尾崎紅葉門下の四天王」
附属図書館講演会 甲府ごぜと越後ごぜを語る -ごぜ唄演奏を交えて-
医学分館 地域貢献事業 生と死のコーナー関連行事 講演会「ホスピスから学ぶ対人援助」
山梨県・山梨大学連携事業 地域の子ども達への読書活動の推進 子どもと本をつなぐ・連続講座 第1回 三日月はどのように描いたらいいのか -子どもと読書- 第2回 知識を豊かにするための読書 第3回 読んで、集って、魂が動く 読書のアニメーション体験講座 第4回 子どもの本のもつ力 第5回 シンポジウム 私の子ども時代の本棚 -子どもと本が出会うとき-
平成21年度
山梨大学附属図書館近代文学文庫関連イベント 講演会「谷崎文学の魅力-『痴人の愛』から『細雪』へ-」
医学分館 地域貢献事業 生と死のコーナー関連行事 講演会「ホスピスは何処へ行ったのでしょうか-チャプレンの立場から-」
山梨県・山梨大学連携事業 地域の子ども達への読書活動の推進 子どもと本を楽しむ・連続講座 第1回 木の枝が揺れるから、風が吹く！？ -子どもの本音を活かした科学読み物- 第2回 声と表現のセミナー イメージを声にのせて 第3回 ワークショップ 読み聞かせと朗読 第4回 科学と読書 第5回 発達段階に応じた読書を考える -学校から、公共図書館から-

(出典：附属図書館資料)

資料 図書 5 附属図書館環境整備

平成 2 1 年度図書館整備事項		
場所	事項	備考
本館 3 階	利用者用トイレ改修	
	雑誌閲覧室の閲覧机更新	
	雑誌閲覧室の椅子更新	
	新聞閲覧コーナーの移設	3 階ホールから雑誌閲覧室内に移設
	雑誌閲覧室・YINS 端末室の照明器具更新	
	ガラス窓の遮熱フィルム貼付	
本館 2 階	利用者用トイレ改修	
	図書閲覧室閲覧机の間仕切り更新	
	図書閲覧室の椅子更新	
	山梨県関連資料コーナー移設	
	ドリンクスペース設置（床面改修含）	山梨県関連資料コーナー跡地
	新刊図書コーナーの書棚整備	
	学生用電子掲示板設置	
	ガラス窓の遮熱フィルム貼付	
本館 1 階	利用者用トイレ改修	
	学生用電子掲示板設置	
	電動集密移動書架設置	1 階閉架書庫の一部電動集密化
	書庫及び事務室の照明器具更新	
本館地階	本館地階床面、壁面整備	
	書架設置	1 階閉架書庫の電動化部分から移設
	手動集密移動書架設置	
本館外壁	北側外壁塗装	隣接するK号館と同色塗装
医学分館	館内エレベータ改修	身障者対応
	館内床面一部改修	一部カーペット張替え
	網戸設置（医学分館 2 階の窓）	

（出典：図書館運営委員会資料）

資料 センター1 教育研究高度化支援体制整備プロジェクト

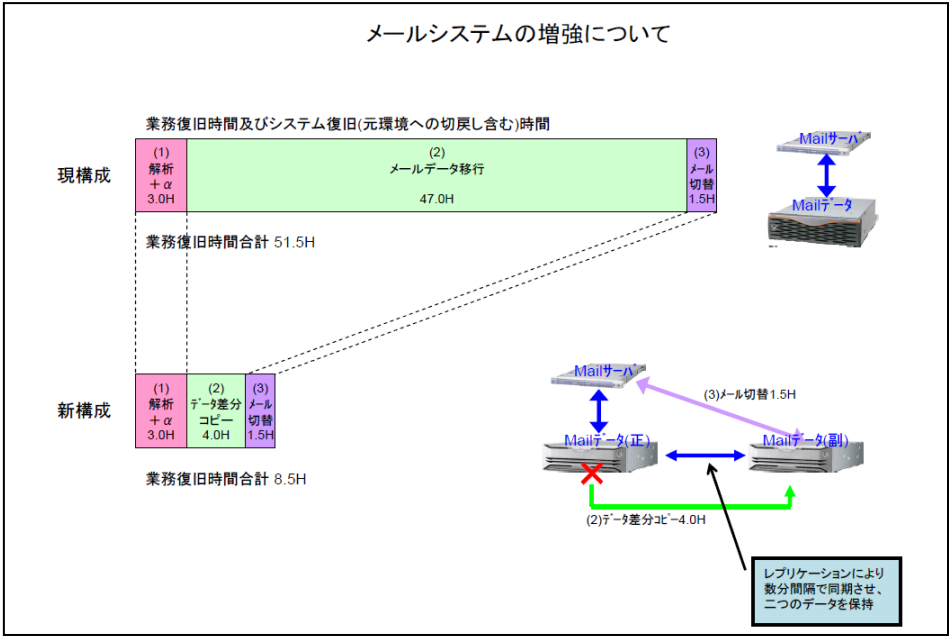


教育研究高度化支援体制整備プロジェクトによる人材雇用実績

プロジェクト	雇用者			継続者
	新規	振替	計	
先端研究支援プロジェクト	18	1	19	10
教育環境高度化支援プロジェクト	9	8	17	7
国際対応・キャリア支援プロジェクト	4	1	5	1
研究運営支援プロジェクト	13	21	34	24
計	44	31	75	42

(出典：産学官連携・研究推進機構資料)

資料 センター2 メールシステムの増強



迷惑メール駆除件数について

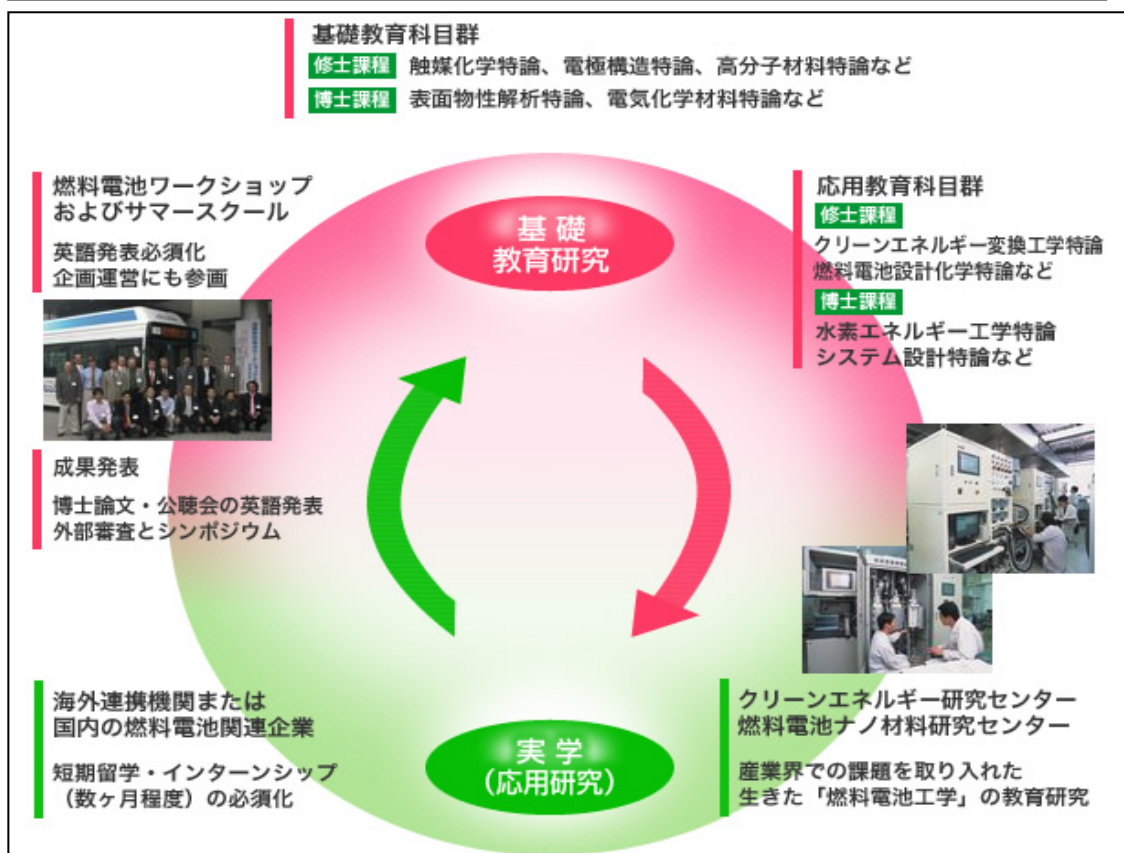
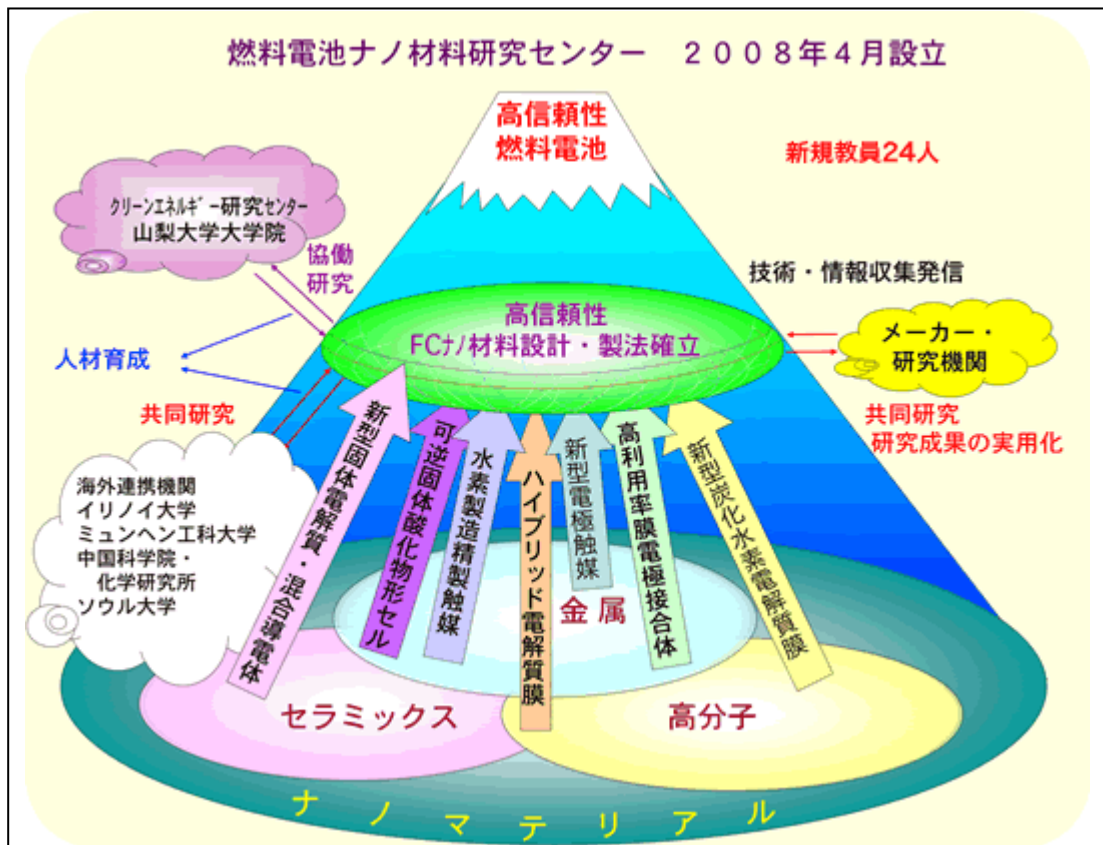
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ユーザに届いたメール件数	1,645,672	1,551,121	1,339,875	1,241,312	1,293,056	1,190,837	1,243,292
正常メールと判断された件数	1,645,672	1,551,121	1,339,875	980,635	971,779	929,379	995,197
SPAMフィルタにより迷惑メールと判断された件数	0	0	0	260,677	321,277	261,458	248,095
到達メールに対する迷惑メールと判断された割合	0%	0%	0%	21%	25%	22%	20%

↑
SPAMフィルタの導入

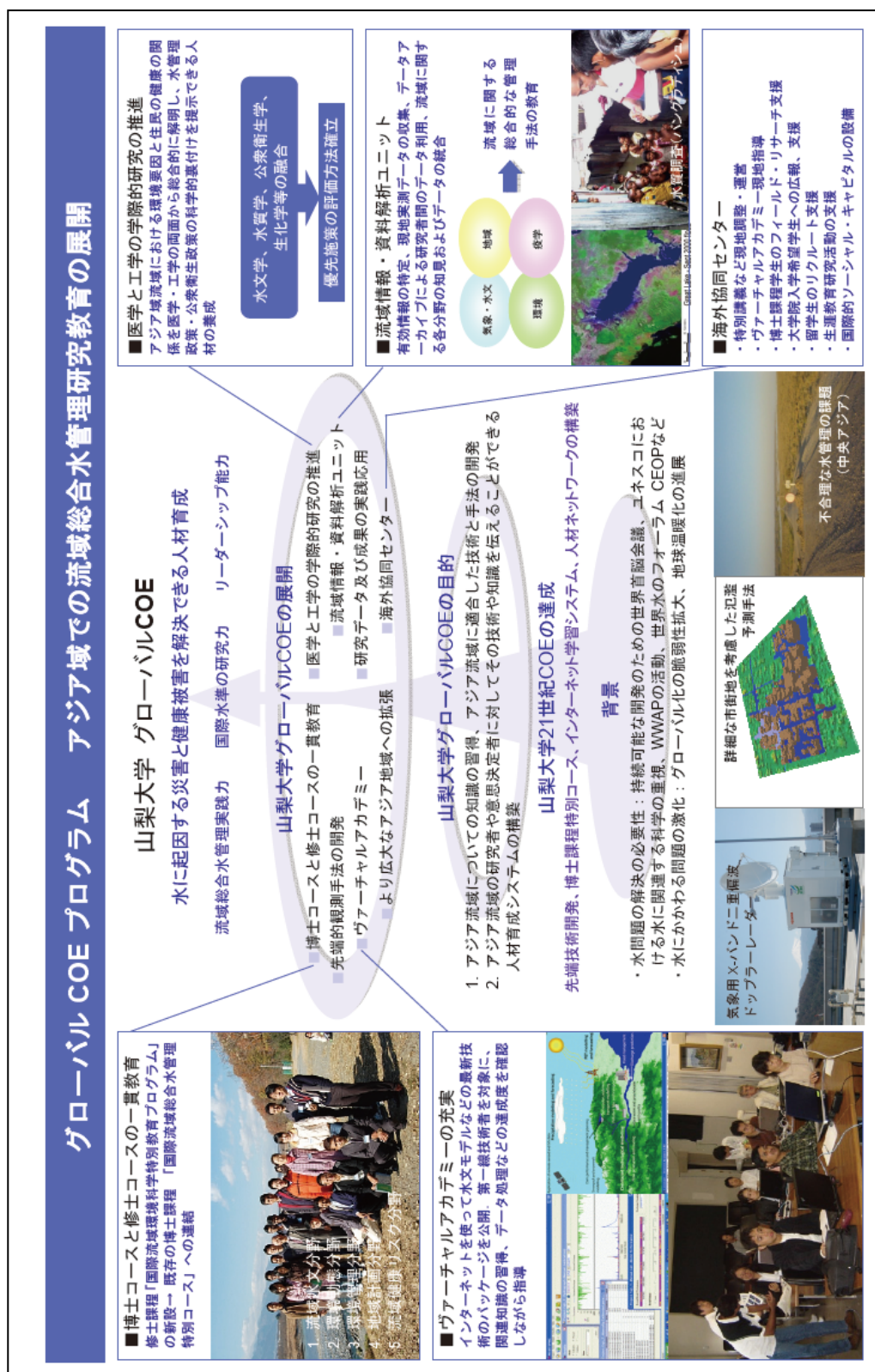
- ・スパムフィルタ導入により、迷惑メールのほとんどはフィルタリングされ、ユーザへ届かなくなった。
- ・上記統計のとおり月25万件～32万件の迷惑メールを駆除することができた。

(出典：総合情報戦略機構資料)

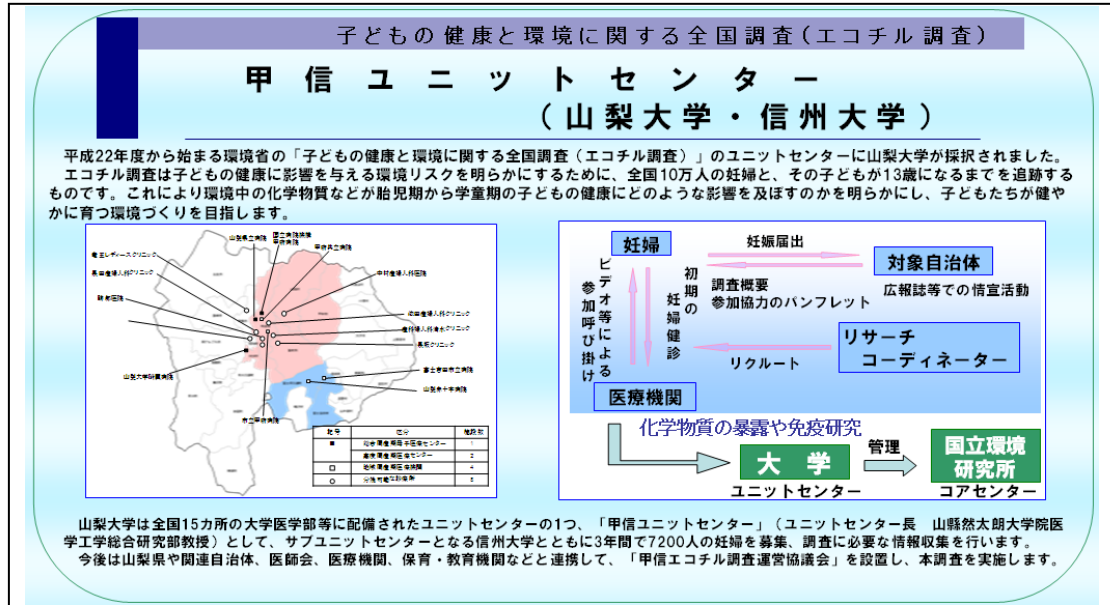
資料 センター3 燃料電池ナノ材料研究センターの概要及び教育研究概念図



(出典：燃料電池ナノ材料研究センターホームページ)



資料 センター5 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）



(出典：産学官連携・研究推進機構資料)

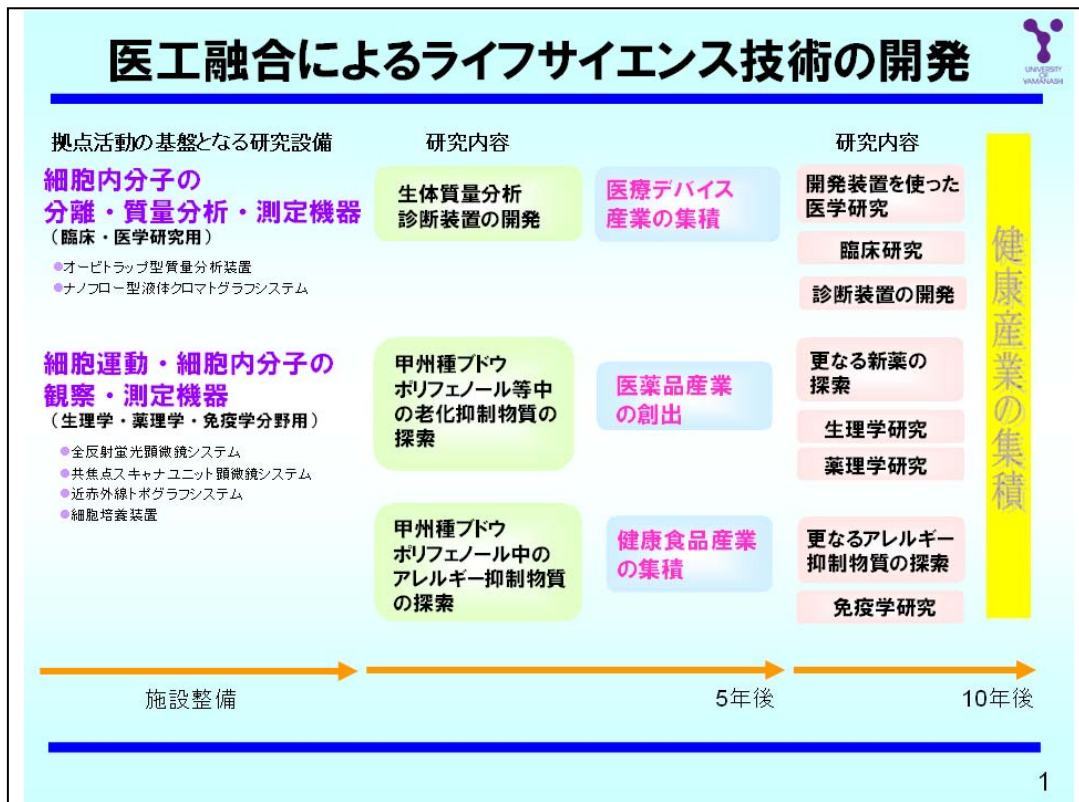
資料 センター6 地域産学官共同研究拠点

○地域産学官共同研究拠点の概念図



(出典：産学官連携・研究推進機構資料)

○ライフサイエンス技術の研究開発



(出典：産学官連携・研究推進機構資料)